

すみよし



カトリック住吉教会 創立 90 周年記念号

聖句

「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。

その名はインマヌエルと呼ばれる」

この名は、「神は我々と共におられる」

という意味である。

マタイによる福音書 1章23節



クリスマスおめでとうございます



目次



☆	前田万葉 枢機卿	...	2
☆	酒井俊弘 補佐司教	...	3
☆	諏訪榮治郎 名譽司教	...	4
☆	ブインガ・ブレーズ 神父	...	5
☆	コンスタンシオ・C・コンスルタ 神父	...	6~7
☆	谷口幸紀 神父	...	8
☆	興治美恵子 星の園幼稚園園長	...	9
☆	矢野 吉久 神父	...	10
☆	赤波江 豊 神父	...	11
☆	和田 幹男 神父	...	11
☆	松浦 信行 神父	...	12
☆	ブラッドリー・ロザイロ 神父	...	12
☆	^{キム} 台根 神父	...	13
☆	Sr. 小長谷壽子	...	14
☆	年表	...	15~27
☆	住吉教会創立 90 周年記念の祈り	...	28
☆	2025 年 カトリック住吉教会の「声」	...	29~49
☆	「創立 90 周年記念ミサ」7月 6 日	...	50~51
☆	教会学校	...	52~57
☆	後記	...	58

題字：J. Y.

「すみよし電子版」はカトリック住吉教会 HP にも掲載しております。





カトリック大阪高松大司教区 トマス・アキュナス 前田万葉枢機卿

住吉の春愁超えの卒寿かな

住吉教会創立 90 周年おめでとうございます。

住吉教会は 1935(昭和 10)年 5 月、メルシェ神父によって、御影町に設置され、翌 1936 年には現在位置(住吉宮町)に移転しています。

創立後は 1945 年の神戸大空襲で聖堂焼失、1953 年台風 13 号で仮聖堂損壊という苦難を経て、1956 年に新聖堂落成をいたしました。しかしながら、1995 年の阪神淡路大震災により聖堂損壊、司祭館全壊の大変な苦難を乗り越えなければならなかったのです。そのような中にも幾多の司祭を輩出し神戸東部の宣教拠点として貢献されてまいりました。そして今では、特に在日外国人の方の御ミサ参加や心の拠りどころとしてなくてはならない存在となり、2006 年には現在の新聖堂も建設されています。また、大震災を機に(信徒を中心とした)地元との交流に努めた結果、星の園幼稚園とともに地域社会から親しみを持って受け入れられる存在となっています。

90 周年を祝うこの 2025 年は、25 年ごとの通常聖年です。前教皇フランシスコは大勅書「希望は欺かない」を発表し、テーマを「希望の巡礼者」と設定いたしました。

同じく 2025 年の大阪・関西万博テーマも「いのち輝く未来社会のデザイン」であり、「希望」が強調されています。おまけに、万博のイタリアパビリオン内に設置された「バチカン展」のテーマも「美は希望をもたらす」です。カラバッジョの「キリストの埋葬画」がそれを彷彿とさせています。聖年と大阪・関西万博を新しい福音宣教のチャンスと捉え、交わり、参加、そして宣教するシノドス的教会となりましょう。そして、いのち輝く未来への希望に満ちた福音宣教へつなげてまいりましょう。



カトリック大阪高松大司教区 パウロ 洒井俊弘 補佐司教

住吉教会の皆様、創立 90 周年おめでとうございます。7 月 6 日の記念ミサの説教で次のようなお話をいたしました。

「90 年に渡って途切れることなく、住吉教会の歴史を紡いできた神父様方、シスター方、信徒の皆様に心から感謝を捧げます。

福音書では、イエス様がエルサレムの神殿を清められた場面が読されました。ヨハネは『イエスの言われる神殿とは、御自分の体のことだったのである』(ヨハネ 2:21) と解説しています。今、私たちは教会堂の中にいます。これはすなわち、イエス様とともにいる、ということです。このことが私たちの尽きない希望の源となっているでしょうか。私たちは時に悲観的になることがあります、それは『神がともにいてくださる』ということを理解していない証拠かもしれません。

住吉教会は、1938 年の水害、1945 年の戦災、1953 年の台風 13 号による被害、1995 年 1 月 17 日の阪神・淡路大震災など、多くの苦難のたびに神の配慮と共同体の努力によって立ち上がり、新しい聖堂が建設されてきました。もっと昔を振り返れば、この教会が捧げられた聖パウロ三木は、教会の少し北の西国街道を、今から 428 年前の 1597 年、長崎に向かって歩いていきました。彼は絶望と悲しみのうちに歩んだのでしょうか。いいえ、きっと彼と 25 名の神父、修道士、信者たちは、自分たちの流す殉教の血によっていつか、自分たちが歩いている道の近くに教会が建つだろうという希望をいだいていたでしょう」

これからもまたこの地に、そして信者の皆さん的心に、神様がともにいてくださることを心から祈念しています。



カトリック大阪高松大司教区 使徒ヨハネ 諭訪榮治郎 名誉司教

住吉教会創立 90 周年 心よりおめでとうございます。

まず私ごとで恐縮ですが、忘れられない思い出があります。生まれて初めて「黙想会」に参加した高校1年の夏、当時主任司祭であった稻田神父様の話に引き込まれました。いつの間にか二人だけのような空間で、同師から流れ出る言葉が金のロザリオのような形で私の中にせまり、吸い込まれてきたのです。私は将来司祭になるという憧れに満たされた時でした。下校時にはいつも（住吉教会の創立にたずさわられた）メルシエ神父さまのもと（灘教会）に通い、「わが青春は幸いなり」を味わった高校時代でした。

阪神淡路大震災の後、住吉教会に派遣されました。未曾有の混乱の中、何をどのように活動していいのかわからない日々、次第に住吉地域の方々との交わりに溶け込むことができました。驚きであったことは自治会のメンバーが本当にこの町を愛し、骨身を削って奉仕されていることを知らされたことでした。被災された方々の仮設住宅が近くの公園に完成し、その地の祝福の祈りを住吉教会に依頼されたこと、その方々との交わりを日々大切にできた教会であったこと、ある寒い寒いクリスマスの夜、ローソクをもって仮設住宅の方々の家を回ったことなども思い出されます。また中高生会のキャンプなど・・・試行錯誤にもかかわらず次々と歴史が蘇ります。どのような教会として震災から再出発するかの検討の中、当時の区の方針にあった「若い家族を支援する」に応え、幼稚園とともに奉仕する教会を目指し、園との一体を現わす扇型の教会の姿が生まれました。子供たちを大切にする宣教姿勢が引き続き保たれ、子供たちが成長していく姿は本当に頼もしく思います。よき業を始めたもう主が完成へと導かれることを確信し、豊かな祝福を心よりお祈り申し上げます。



神戸中央・住吉教会共同担当司祭
MBUINGA・BLAISE ブインガ・ブレーズ神父

カトリック住吉教会の創立90周年おめでとうございます。

この記念すべき日に酒井司教様をお迎えして捧げられたミサは司教様の司牧的熱意と将来に対する希望にあふれ、その言葉の一つ一つによって私達共同体は励まされ、100周年に向かって新たな一歩を踏み出すことができました。

そしてまずは、教会を建設してくださったパリ・ミッション会の神父様と当時の信徒の方々に心より感謝申し上げます。なぜなら彼らの努力によって、今の住吉教会が存在しているからです。

キリスト教は二千年の歴史を誇る大きな組織ですが、日本に初めて福音が伝えられて以来、日本のキリスト教は今年で476年目です。その意味で日本の教会は、まだまだ若く、輝かしい未来に向かって歩むはずの教会です。

しかし、日本の急速な人口減少に伴い日本人信徒の減少が否めません。同時に在住外国人信徒が日本人信徒数を上回ったとも言われ、在住外国人信徒との交流が今後の教会における一つの優先課題となるでしょう。同時に教会は社会を福音化するために存在しています。福音宣教の主人公は聖霊で、私たちはその道具です。一人ひとりに与えられている使命を果たすことができるよう聖霊の導きを祈ります。

特に隣接する星の園幼稚園は教会と同様にカトリックの幼稚園です。教会にとって幼稚園は福音宣教の場であり、幼稚園にとって教会は神様の存在を園児たちに触れさせる神聖な場所です。互いに交流し合い関係を育てることができますように。

最後に、住吉教会は聖パウロ三木の保護に捧げられた教会です。命をかけて信仰を証した彼らに倣い、私たちも受け継いだ信仰を守り、次の世代に伝えることができますように。

聖母マリアのとりなしを願いつつ、共にキリストに従って前向きに歩んで行きましょう。



カトリック住吉教会共同体信徒の皆様へのご挨拶

神戸中央・住吉教会共同 担当司祭
コンスタンシオ・C・コンスルタ神父

この度、カトリック住吉教会の記念すべき節目となる創立 90 周年を私達は皆でお祝いすることができました。1935 年のささやかな始まりから現在の 2025 年、なんと素晴らしい道程でしょうか。この記念日はただ単に建物や組織のお祝いではなく、揺るぎない信仰、忍耐、そしてその扉を歩み進んでこられたすべての人の献身の証です。

信仰と共同体の実り

90 年の間、カトリック住吉教会は靈的なふるさと、癒しと慰めの場、そして多くの家族や個人の希望の灯であり続けました。また、人生における最も重要な節目である洗礼、堅信、婚姻、葬儀の背景として共同体に織り込まれてきました。教会は強さと継続の象徴として存在し、様々な時代の波の中を航海し、絶えることのない神の恩寵の源としての役割を務めてきました。

この記念日は、先人の皆様、すなわち創立にかかわられた方々、司教様方、神父様方、そして今日ある活気に満ちた共同体の礎のために無償の努力を捧げてくださった教区の方々から受け継いできたことを振り返る時です。福音を生きる先人の方々の献身は、実り豊かに織り上げられた信仰を生み出し、それは私たちの信仰を奮い立たせ、導いてくださったのです。

未来に向けて

この重要な節目をお祝いしながら、私たちは大きな希望と新たな目標をもって、将来に向けてさらに進んで行くのです。創立記念のお祝いが私たちの教会の物語の次の章への第一歩となりますよう、信仰、希望、奉仕のうちに、一緒に歩み続けましょう。そして、新しい世代を歓迎し、キリストの光をより幅広い共同体の皆さんで分かち合いましょう。

重ねてこの素晴らしい歩み、お祝い申し上げます。神の祝福がカトリック住吉教会の共同体の上に今もいつまでも豊かに注がれますように。

Hello and greetings to the parishioners of Sumiyoshi Catholic Church!

On this momentous occasion, we have gathered to celebrate a remarkable milestone: the 90th Founding Anniversary of Sumiyoshi Catholic Church. What an incredible journey it has been, from its humble beginnings in 1935 to this year, 2025. This anniversary isn't just a celebration of a building or an institution; it is a testament to the unwavering faith, perseverance, and dedication of every person who has walked through these doors.

A legacy of Faith and Community

For nine decades, Sumiyoshi Catholic Church has been a spiritual home, a place of solace, and a beacon of hope for countless families and individuals. It has been the backdrop for life's most significant moments – baptisms, confirmations, weddings, and funerals – weaving itself into the very fabric of the community. The Church has stood as a symbol of strength and continuity, navigating through different eras and serving as a constant source of divine grace.

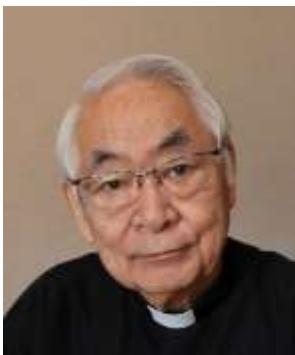
This anniversary is a time to reflect on the legacy of those who came before us – the founding members, the bishops, the priests, and the parishioners whose selfless efforts laid the foundation for the vibrant community we see today. Their commitment to living out the Gospel has created a rich tapestry of faith that continues to inspire and guide us.

Looking to the Future

As we celebrate this significant milestone, we also look forward with great hope and renewed purpose. May this anniversary be a springboard for the next chapter of our Church's story. Let us continue to grow together in faith, hope and service, welcoming new generations and sharing the light of Christ with the wider community.

Congratulations again on this wonderful achievement. May God bless the Sumiyoshi Catholic Church community now and for many years to come!

Fr. Constancio C. Consulta, C.M.



神戸中央・住吉教会共同 協力司祭
洗礼者聖ヨハネ 谷口幸紀神父

住吉教会の90周年のお喜びを申し上げます。

わたしは小学校の4年生の時に六甲の高羽小学校に転校してきて、六甲学院を卒業するまでは神戸っ子をしていましたが、その間に中学2年生の時にお隣の六甲教会で洗礼を受け、ずっと六甲教会でしたから、当時は住吉教会とご縁がありませんでした。

高校を卒業して一度はイエズス会の志願者として東京の上智大学にすすみましたが、思うところあって国際金融業に転向し、50歳でまた回心して、ローマで勉強して54歳で高松教区の司祭になりました。高松教区の消滅とともに大阪高松大司教区の司祭になり、カトリック神戸中央教会と住吉教会のために奉仕することになりました。司祭として様々な出来事を経験いたしましたが、住吉教会は今回はじめて知るところとなりました。

いざこも求道者は少なく、司祭は足りず、信徒の高齢化と減少傾向を前にして、教会の30年後、50年後を思う時、身の引き締まる思いです。かく言う私も今年86才になり、あと何年奉仕できるかわかりませんが、働ける間は自身と信徒の皆さまの回心のために微力を尽くしたいと思います。復活を信じ、自他の聖化のために精進してまいりましょう。

信仰の糧としては、主日のミサに与り短い説教を聞くだけでは全く足りません。毎日ロザリオを唱え、スマホに教会の祈りをダウンロードして朝夕祈り、赦しの秘跡にも年に最低5~6度は与るようにしましょう。亡くなった愛する人々の記念日には、平日の朝ミサに与り、彼らに多くの恵みをゆずり、無事天国に入れるよう助けましょう。収入の3%を教会に納めるだけでは足りません。十分の一の義務は真面目なものです、回心の印として見直しましょう。



学校法人 兵庫カトリック学園
星の園幼稚園 園長 興治美恵子

住吉教会の創立 90 周年にあたりまして心よりお祝いの言葉を述べさせていただきます。子どもたちが聖堂に足を踏み入れた時にはどのような思いを抱くのでしょうか。入るたびにあまり心地よくない体験ばかり思いだされるのでは悲しすぎます。そうではなくて聖堂に入るたびに心の安らぎと喜びを生み出してくれるような存在であって欲しいと私は思っています。そして、住吉教会の聖堂に満ち溢れている雰囲気は、子どもたちにとって紛れもなく心の安らぎと喜びを感じられる場所となっています。

90 周年という長期にわたり住吉教会はその使命を果たし続けています。90 年前と現在とでは社会情勢も随分と変化をいたしました。そして今、日本は少子高齢化の影響を大きく受けて、全てのことが規模の縮少期に入っているように感じられます。そういう時、私たちは今あるものを守ることを優先し、外に対してかたい殻をまとめて考えてしまいがちです。しかし、住吉教会はいつも扉は開かれ、子どもたち・保護者の方々・住吉の人々に呼び掛けてくださる教会として存続し続けています。子どもたちはこの地で、のびのびと自分らしくそして規範をもって将来の夢を育んでいます。教会の皆様のキリスト者としての使命に感謝いたします。

住吉のこの地に一粒の種をまかれた初代園長ベロー神父様のお言葉どおり、幼稚園を巣立った子どもたちが夜空に光り輝く星のように、それぞれの場所で光り輝いていることを誇りに思っております。

『教会と共に歩む幼稚園』として今後もその使命を果たしていきますよう、私たち職員一同日々努力し務めてまいります。

「あの時のことはこの時のため、そんな喜びを大切に、拾い集めていきたい」
まかれた種が成長していくこと、住吉教会のさらなる発展を願いつつ、お祈りを申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。



箕面教会主任司祭 アロイジオ 矢野吉久神父

鶯の巣の上に舞い降りて ひなを力づけ
羽を広げ、翼に乗せて運ぶように
ただ主のみが、民を導かれた。 申命記 32章 11、12

一枚の写真を見ています。“住吉教会創立90周年記念ミサ”。

多くの人の顔、人々の教会離れといわれるようになって久しいですが、こんなにいろんな世代の人々が集まってお祝いしたのですね。懐かしい顔も見え私もいろいろな事が遠い記憶の中からよみがえって来ます。

私の住吉時代は1989年～1991年。そして阪神淡路大震災の二年後1997年～2002年です。最初に赴任した時、教会の庭に赤や白の花の源平桃がいっぱい咲いていました。そして古色蒼然たる立派な洋風の司祭館が建っていました。立派ではありますが住むにはかなり不便なものでした。

主任司祭として初めての任地で、私も若かったこともあり、教会での活動、カトリック学校での授業 etc 楽しいものでした。とりわけレジオ・マリエのご婦人方がご一緒に下さり病人や高齢者の方々の訪問を助けて下さったことはよく覚えています。二年経ちようやく慣れて来た頃、東京の神学校へ転任となり、六年間神学生養成の仕事をすることになりました。その間に阪神淡路大震災が起こったのです。その二年後、住吉へ再度の任命を受けました。大震災という辛く悲しい出来事を過ぎ越している住吉の信徒の方々は、そこから新しい信仰共同体を造り上げようとする意気込みがありました。神様の大きな息吹を感じました。

二度目の住吉でしたが前回と同じく信徒の方々は司祭を支え助けて下さいました。カトリック校で教えることに加え、拘置所での教誨師の仕事も増え、死刑囚との対話にむつかしさを感じ不安を持ち悩んでいた時、そんな様子に気がついてか、あるご婦人の信徒の方がひと言「大丈夫ですよ」と言って力づけ励まして下さった。

司祭が信徒に力づけられ励まされた、あべこべのようですが元気になりました。

私は住吉でミサを捧げ、素朴に聖書を読み、そこにあるキリストを素朴に語っただけです。預かった七年間をそう過ごしました。

住吉教会を創立し九十年導いて下さったのは神様、冒頭の申命記は続けて言います。

「他の神々はいなかった」と。



未来形で話しましよう

宇和島・八幡浜教会主任司祭 ヨセフ 赤波江 豊神父

皆様、住吉教会創立 90 周年おめでとうございます。この住吉の地に教会が創立され、戦争、震災などを経た 90 年の重みは大きいです。この 90 年の積み重ねの上に皆様の信仰があります。私もこの住吉教会で通算 10 年主任司祭を経験できたことを、皆様と神様に心から感謝しています。この 90 年の歩みに感謝するとともに、ますます多様化していくこれから教会を考えるにあたって大切なことは、ものごとは過去形で話し合うのではなく、未来形で話し合わなければならないということです。「かつてはこうだった」「昔はああだった」という話し方をすると、「今はよくない」という結論になりやすく、そうなると不平不満が出てきて、やがて不満の責任を他の人に押し付ける悪い症状に陥ります。そうではなく、かつて問題があったとしても、頭を上げて「これからは、こうしよう」「私たちは、これからこうしたい」という未来形で話しましよう。そうすれば、一見悪いことばかりに見える世の中でも、実際私たちの周囲には希望の芽生えがたくさんあることに気づきます。世の中問題ばかりに見えても、それでも社会が動いているのは、立場の違いを越えて無数の善意の人たちが無償で働いてくれているからです。住吉教会創立 100 周年もすぐです。よりよい 100 周年を迎えるために、90 年の歩みに感謝しながら、立場の違いを越えた無数の善意な人たちと協力して、いつも未来形で話しましよう。「これから私たちは、希望に満ちた教会を作りたい」と。



わたしの司祭職の原点

パウロ・三木 和田幹男神父

カトリック住吉教会創立九〇周年、心からお祝い申し上げます。この教会の創設に苦労されたカスター司教様、A・メルシエ神父様、特にデラ神父様を思い出し、感謝に堪えません。

わたしの父、和田実（みのる）は最初の伝道士として、この教会に招かれました。小生はその長男です。わたしは小学校に入る前から毎日ミサの侍者をさせられました。当時ミサはラテン語でしたから、侍者もそのラテン語の祈りを丸暗記させられました。この祈る習慣が司祭職への導き手となり、現在も司祭として生かされています。神に感謝。

香川地区モデラトール・司教代理・四国カトリック会館館長

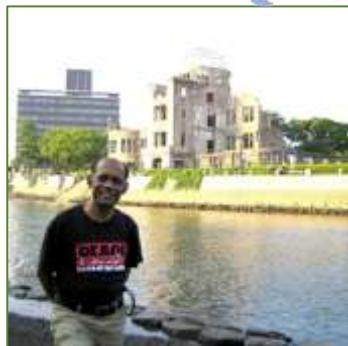
ヨゼフ 松浦信行神父

住吉教会創立 90 周年おめでとうございます。私は、1984 年 4 月から 1985 年 3 月までの 1 年助任としてお世話になりました。1984 年の 3 月 11 日、御受難修道会員として叙階の恵みを受けてすぐに赴任したわけです。実は、新人の修道司祭が、すぐに教区の助任として派遣されることには、当時はとても珍しいことでした。

稻田師との生活の特筆すべき事は、色々な講座が終わった晩 9 時から 11 時まで、お酒を交わしながらの稻田師の体験談から司祭生活のノウハウを学ぶといった勉強会にあります。稻田師が主任司祭になった頃、琵琶湖にキャンプに行って、お預かりしていたお子さんの事故があり、いのちの終わりを考えたこと、ボイスカウトのジャンボリーの体験、土地をまとめて四方を道で囲んだこと、同期の中でいち早く主任司祭になったことなどの、エピソードの周辺にある司祭として考えるべき事を、それとなく匂わせた教育でした。

だから、住吉教会の皆様との出会いは、毎晩の勉強会をもとに組み立てられました。信徒の家庭を見るようにとの家庭訪問、そして病者訪問など、体験を十分するようにと稻田師は私にすべてを委ねて下さったのです。また信徒の名前を覚えるようにと、名簿整理も私の役割でした。子どもたちや青年との出会いも、心に残っています。

そしてこんな謝罪の言葉もいただきました。「松浦神父さん、申し訳ないなあ。わたしと共に暮らした新司祭の一年目の体験は、一生心に浸み込むものだ。」その通り、住吉教会での私の経験は、司祭生活の土台となっています。皆様の人を育てる温かい心に感謝です。



水巻教会主任司祭

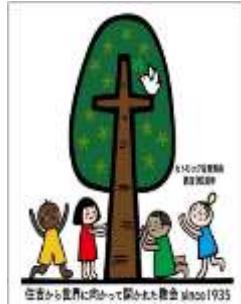
ブラッドリー・ロザイロ 神父（オブレート会）

カトリック住吉教会創立 90 周年おめでとうございます！

個人の命であれ、共同体の命であれ、命は神からの賜物であります。それゆえ、私は住吉教会という共同体に与えてくださった命に、そして短い期間でしたがその共同体の中で私に果たさせてくださった役割に心より感謝申し上げます。

創立以来、神は住吉教会を導いてこられました。また、共同体の靈的成長、継続的な繁栄、そして小教区の未来を祝福してくださった神の恵みがこれからも豊かに注がれますように。90 周年は、教会共同体にとって、信仰の歩みと共通の歴史を振り返り、新たな決意をもって未来を築く絶好の機会となると確信しております。

住吉教会共同体がこれからも希望の光であり続け、すべての人を温かく迎え入れ、神のことばと秘跡によって養われ、キリストの使命を生きるよう励まされる場所であり続けますように。皆様があつい信仰に恵まれますようお祈り申し上げます。



姫路西ブロック共同 担当司祭 ペトロ キム テゴン 金台根神父

住吉教会創立 90 周年を心よりお祝い申し上げます。

まず、このような大きな記念日にご招待くださった皆さんに感謝申し上げます。

教会創立 90 周年を記念し、そして共に祝う誰かがいることは、より大きな喜びです。考えてみると、今年 2025 年は阪神タイガースの創立 90 周年でもあります。

六甲嵐に颯爽と 蒼天翔ける日輪の 青春の覇気美しく
輝く我が名ぞ カトリック住吉 阪神タイガース！

叙階 50 周年の金祝を迎えた、皆から尊敬されている、ある修道会の神父さまがいました。誰かがそのお爺ちゃん神父さまに、次のような質問をしたそうです。

『司祭として、どうすれば、そんな素晴らしい人生を歩んでこられるのですか？』普通なら、ここで信者さんたちのために、何かためになるような話をなさるところですが、その神父さまは、こう答えられたそうです。『今日辞めようか、明日辞めようかと思っていて、気がついたら 50 年たっていたんですよ。』と。生きていくうえで、苦労や葛藤がなかったはずがありません。

創立 90 周年を迎えて、過去を振り返ってみれば、この教会がこれまで何の葛藤もなく、スムーズにここまで来られたとは、到底思えません。それでも、共同体の中にあって、言葉ではなく行動によって、黙々と信仰を証ししてこられた信者の方々がいたからこそ、ここまで来ることができたのだと思います。

10 年後、住吉教会は創立 100 周年を迎えます。

皆さん、創世記 21 章には、アブラハムが 100 歳で息子イサクをもうけたと記されています。ですから、10 年後 100 歳を迎える住吉教会も、希望を持って、司祭や修道者という、息子や娘を授かることを願いつつ、今からの 10 年をともに歩みたいと思います。

今日この場にいる青少年の諸君に、こう声をかけてみましょう。

「君たち、本当にかっこいいね。大きくなったら司祭になってみない？」

フィリピの信徒へ手紙の言葉で終わりたいと思います。

「神はあなたがたの中で良いことを始められたので、ご自身の手で、そのことを成し遂げてくださるでしょう。」



住吉教会の思い出

マリア・ローサ

小長谷 壽子 RCM

(聖マリアの無原罪教育宣教修道会)

平成元年四月から平成七年三月迄、星の園幼稚園と住吉教会に携わった年月から楽しかった三つの思い出を綴ってみましょう。

第一は幼稚園の保護者を対象とした聖書の集いです。スペイン国ブルゴス出身で宣教熱心な園長の Sr. エステル・ハラミリョと私の二つのグループがあり、広部さん、南浮さん、氏家さんは Sr. エステルのグループでした。

私のグループは司祭館で VTR 「十戒」 や「屋根の上のバイオリン弾き」 等を副材料に取り入れたカテキズムでしたが、ある日勉強会の中で、「ワー、これは真理だ！」 と福田好子さんが叫んだ声が印象に残りました。当時沢山の方々が受洗され、その中の数名との交流が今日迄続いています。

第二は住吉教会と灘教会の青少年を対象とした第一回サムエルナイトです。小学生を青年や保護者がリードし、支援しました。画家の前島さんが腕を振るって描かれた放蕩息子のペーパーサート劇、ルルドの岩屋へ向かうキャンドルサービス、エプロン隊のカレーライス等で盛り上がり、夜は三木館二階の部屋の中央で男女分けして、畳に敷きつめた真新しい子供用敷布団の上で休みました。因みにこの宿泊型の集いは日本キリスト教団主催の軽井沢 CS 研修会に於ける信仰教育の実践活動報告からヒントを得たものでした。家族ぐるみの銭湯、買物、調理、食事会、信仰の分かち合いの実践は興味深いものでした。

第三の思い出は青年グループによる六甲山への遠足です。御影石の岩肌を眺めながら登って行くと、せせらぎの流れの中の見事な白い野ばらに五月雨が注いでいる場所に着きました。野口さん、鶴谷さん、多月さん達が清楚な野ばらと共に演しているような平和な一時でした。



Sr. エステル

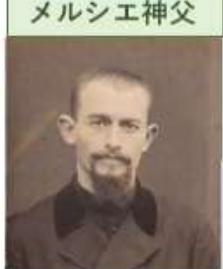
年表 1935年～2025年

* 住吉教会90年の歩み



写真で辿る「カトリック住吉教会 90 年の歩み」のスライドショーは
https://www.youtube.com/watch?v=xX4i56_RkHE からもご覧になれます

1935年～1945年

住吉教会内でのできごと	西暦	他
<p>5月 メルシエ神父、武庫郡御影町申御田に仮聖堂設置</p> 	1935	
<p>メルシエ神父</p>  <p>アルフレッド・メルシエ神父 1905.2.誕生 - 1977.8.帰天 1930.3. 叙階 1935.5～1937.9 住吉教会主任（初代） 1956.10～1960.12 住吉教会主任（9代）</p>		
<p>5月 現在地に教会用地購入</p> <p>司祭館、聖堂竣工、献堂式</p>  	1936	<p>二・二六事件 スペイン内乱始まる</p> 
<p>10月 デラ神父、主任司祭として着任</p> <p>ヨゼフ・デラ神父 1906.4.誕生 - 1979.8 帰天 1930.12. 叙階 1937.10～1938.3 住吉教会主任（2代） 1943.3～1950.6 住吉教会主任（6代） 1954.6～1956.10 住吉教会主任（8代）</p>	1937	<p>日中戦争</p>
<p>3月 モラ神父、主任司祭として着任</p> <p>アンリ・モラ神父 1911.3 誕生～1975.12 帰天 1934.7 叙階 1936.10 来日 1938.3～1939.9 住吉教会主任（3代）</p>	1938	<p>国家総動員法公布</p> 
<p>7月 阪神大水害、土砂により大きな損害を受ける</p> <p>1938.7.15付朝日新聞 切り抜き モラ神父が濁流の中、人名救助をなさった記事。</p> 		<p>「教会南側畠地は泥土ノ海化ス。二階ヨリ写ス」伝道士和田実氏の日記帳より。</p>

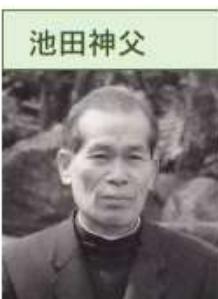
1935年～1945年

住吉教会内でのできごと	西暦	他
ピロー神父  <p>ヨゼフ・ピロー神父 1867.7誕生 - 1950.11 住吉教会にて帰天 1890.3叙階 1939.9~1941.2 住吉教会主任(4代) 1941.2~1950.11 住吉教会助任 (カスター司教主任司祭として着任のため)</p>	1939	独ソ不可侵条約 第二次世界大戦始まる 2月 教皇ピオ11世帰天 3月 教皇ピオ12世着座
カスター司教  <p>ヨハネ・バブチスタ・カスター司教 1877.1.誕生 - 1943.3.帰天 1899.9. 司祭叙階 1918.8. 司教叙階 1941.2~1943.3 住吉教会主任司祭として着任</p>	1941	2月 田口芳五郎司教、大阪教区長となる 
西村神父 デラ神父  <p>西村良次神父 1911.9~1988.12 1939 叙階 1942.1~1945.9 住吉教会助任司祭として着任</p>	1942 1943	12月 太平洋戦争始まる 1月 西村神父、助任司祭として着任 12月 カスター司教、丹毒発病 3月 カスター司教、帰天 3月 デラ神父、主任司祭として着任 12月 西村神父、応召 カスター司教への住吉教会赴任の任命書 12月 田口司教、復員 イタリア降伏 学徒出陣
	1945	8月 神戸大空襲により聖堂焼失 1945 広島、長崎に原爆投下

1945年～1970年

住吉教会内のできごと	西暦	他
	1945	8月 太平洋戦争終る
<p>9月 西村神父復員後、田辺教会へ転任 ←</p> <p>6月 ジュセン神父、主任司祭として着任</p> <p>11月 ベロー神父、帰天</p> <p>モーリス・ジュセン神父 1889.6 誕生～ 1988.6 帰天 1929.6 叙階 1950.6～1951.1 住吉教会主任（7代）</p>	1945	仮聖堂内
	1950	朝鮮戦争始まる 教会管轄区域の変更
<p>1月 ベロー神父、助任司祭として着任 ←</p> <p>ロジェ・ベロー神父 1925.1 誕生～2019.6 帰天 1949.5 叙階 1951.1～1961.1 住吉教会助任 1961.1～1968.4 住吉教会主任（10代）</p>	1951	
<p>都市計画による敷地削減、 仮聖堂、正門等移転 ←</p> <p>6月 季刊誌「すみよし」創刊 →</p> <p>10月 ルルド完成</p> <p>ルルド </p>	1952	
	1953	季刊誌「すみよし」第1号
<p>9月 台風13号のため、仮聖堂損壊 ←</p> <p>11月 幼稚園建築着工</p> <p>JOCA（カトリック青年労働者連盟）結成</p>	1953	
<p>12月 聖堂再建に着手</p> <p>4月 星の園幼稚園開設 ←</p> <p>第一回バザー開催 →</p> <p>6月 デラ神父、主任司祭として着任</p> <p>4月 幼稚園遊戯室を増築 ←</p> <p>10月 メルシエ神父、主任司祭として着任 ←</p>	1954	<p>星の園幼稚園</p>
<p>メルシエ神父 </p>	1955	
	1956	

1945年～1970年

住吉教会内でのできごと	西暦	他
	12月 新聖堂落成、献堂式 1956	
	子供のミサ始まる 1957	
ベロー神父 	6月 レジオ・マリ工発足 10月 デラ神父、助任司祭代理として着任 1958	10月 教皇ピオ12世帰天 10月 教皇ヨハネ23世着座
	11月 創立25周年祝賀会開催 1960	新安保条約
コーナン神父 	1月 住吉教会管轄区域変更、 ベロー神父、主任司祭となる 1961	11月 外人墓地移転完了
	11月 コーナン神父、助任司祭として着任 1962	10月 第二ヴァチカン公会議始まる
ミシェル・コーナン神父 1934.8 誕生～ 1960.12 叙階 1962.11～1964.11 住吉教会助任 1969.11～1974.4 住吉教会助任 2018.4～2021.8 神戸中央・住吉 協力司祭	1963 3月 大阪司教座聖マリア大聖堂献堂	
	7月 JOC解散、青年会発足 1964	6月 教皇ヨハネ23世帰天
	12月 聖パウロ三木館完成 1965	6月 教皇ヨハネ・パウロ1世就任
池田神父 	4月 聖堂増築完成 1966	10月 新ミサ典礼の試み始まる
池田 実神父 1909.12 誕生～ 2004.9 帰天 1938.3 叙階 1968.4～1971.3 住吉教会主任（11代）	1月 和田幹男師、ローマにて司祭叙階 1966	第二ヴァチカン公会議終る
	4月 パリ・ミッショナリ会を離れ、邦人司祭の司牧へ 1968	
	4月 池田実神父、主任司祭として着任 4月 赤堀神父、助任司祭として着任 4月 大学生を中心CJBD結成 （～1973年頃まで）	
赤堀神父 		
	赤堀 富男神父 1940.5. 誕生～ 1967.7 叙階 1968.5～1969.9 住吉教会助任	
	11月 コーナン神父、助任司祭として着任 1969	
	1970	

1971年～1994年

	住吉教会内でのできごと	西暦	他
飯島神父	<p>4月 飯島幸一神父、主任司祭として着任 ← 1971</p> <p>4月 池田雄一神父、助任司祭として着任</p> <p>飯島 幸一神父 1919誕生～1975.7 1952.12 叙階 1971.4～1975.7 住吉教会主任（12代）</p>	1971	コルベ神父、列福さる
池田神父	<p>池田 雄一神父 1941 住吉教会で受洗 1971.4～1972.3 住吉教会助任</p>	1972	
浜崎神父	<p>4月 浜崎正博神父、助任司祭として着任 ← 1973</p> <p>浜崎 正博神父 1944. 7.～1981.8 帰天 1973. 4. 叙階 1973.4～1975.3 住吉教会助任</p>	1973	 <p>キャンプに向かうバスの中</p>
稻田神父	<p>6月 田口司教を迎へ、堅信式を行う ← 1974</p> <p>7月 飯島神父、帰天 ← 1975</p> <p>8月 稲田神父、主任司祭として着任</p> <p>11月 ルルドに納骨堂完成</p> <p>稻田 豊神父 1925.11. 8 誕生～2007.9. 帰天 1952.12 叙階 1975.8～1985.4 住吉教会主任（13代）</p>	1974	聖年開幕
松本神父	<p>5月 松本武三神父、助任司祭として着任 ← 1977</p> <p>6月 故田口枢機卿の方針に基く評議会発足</p> <p>2月 聖堂前に聖パウロ三木像建つ ← 1979</p> <p>松本 武三神父 1943.3誕生～2017.10 帰天 1974.11 叙階 1977.5～1980.4 住吉教会助任 1985.4～1988.3 住吉教会主任（14代）</p>	1977	8月 メルシエ神父、帰天
		1978	2月 大阪教区長田口枢機卿、帰天
		1979	カトリック、プロテスタント共同訳新訳聖書 2月 安田大司教、大阪教区長に着座 マザー・テレサ、ノーベル平和賞受賞
		1981	8月 デラ神父、帰天 2月 教皇ヨハネ・パウロII世来日
		1984	4月 マザー・テレサ、来日
		1988	8月 浜崎神父、帰天

1971年～1994年

西暦	他
1982	コレベ神父、列聖さる
1983	3月 特別聖年開幕
1984	特別聖年、閉幕
1985	4月 松浦神父、助任司祭として着任 松浦 信行神父 1984.3. 11 叙階 1984.4～1985.4 住吉教会助任
1986	11月 住吉レジオマリ工発足30周年
1987	9月 石井望神父、助任として着任
1988	4月 ホビノ・サンミゲル神父、主任司祭として着任 ホビノ・サンミゲル神父 1941.10 誕生～2024.7 帰天 1988.3～1989.4 住吉教会主任（15代）
1989	4月 矢野吉久神父、主任司祭として着任
1990	4月 堅信式 10月 第1回セニヨール・デ・ロス・ミラグロス 12月 堅信式
1991	4月 生藤達男神父、主任司祭として着任 11月 聖堂屋根葺き替え（雨漏りのため）
1992	堅信式
1993	
1994	

1995年～2004年

住吉教会内のできごと

西暦

他

1995年 1月17日 午前5時46分 阪神淡路大震災発生

信徒2名、求道者1名帰天 1995

司祭館・幼稚園ホール・外壁全壊

信徒家屋全壊2110、半壊24、全焼8、怪我人無し



兵庫県内被害
犠牲者 6,434人
全壊家屋 104,004棟
半壊家屋 136,953棟

1月22日 主日のミサに12～13名集う

司祭館解体作業開始

安否確認、相互連絡、救援物資活動開始

4月 諏訪神父、主任司祭として着任

諏訪神父



諏訪 榮治郎 神父
1995.4～1997.3 住吉教会主任（18代）
2002.5～2005.3 共同司牧担当司祭

5月 週報No1.発行（のちに「風」となる）

11月「新生」の一歩として地区と合同の「ふれあいフェスタ」を開催

住吉公園内に「ふれあいセンター」開設（諏訪神父による祝別）

プレハブの司祭館新設

六甲・三田教会、大阪北ABブロック等と共に、8教会信徒が炊き出しなど応援に

大阪新生計画発表

共同宣教司牧発足

西宮司教館売却

ふれあいフェスタ



3月 チーム制発足（新生、研修、福祉、司牧、營繕、広報、財務、教会学校、聖歌隊、レジオ、ヨゼフ会、婦人会）

1996 3月 池長潤大司教 叙階

4月 池長大司教を迎えて「新生について」パネルディスカッション

2月 26聖人殉教400年記念植樹 1997

新聖堂建設について検討始まる

4月 矢野神父、主任司祭として着任

5月 安田大司教退任

6月 池長大司教 着座

10月 ベラーのジブリアーニ大司教來訪



聖堂補修作業再開 1998



1995年～2004年

住吉教会内でのできごと	西暦	他
婦人会制終了。ABCDの地区ブロック活動に移行 	1999	5月 神戸中央教会発足
神戸の冬を支える会 参加開始	2000	7月 松浦悟郎補佐司教、叙階
2月 池長大司教による堅信式（17名）	2001	1月 大阪大司教区大聖年開幕ミサ
26聖人の歩いた旧西国街道の歴史を学び歩く	2002	5月 神戸大聖書展（於：そごう）貴重な出展で大盛況
4月 共同宣教司牧開始（神戸中央・住吉）		
マリオ神父 	10月 国際交流の日、ミラグロスのお祝い 松浦補佐司教を迎えて 神戸中央教会と合同で実施	神戸東ブロック共同司牧 (諏訪神父、マリオ・コリーナ神父、最頼巖流神父)
	マリオ・コリーナ神父 1954.12誕生～2025.10帰天 2002.5～2004.4 共同司牧担当司祭	最頼 巖流神父 2002.4～2002.5 共同司牧担当司祭
パウロ神父 	1月 パウロ・セコ神父、着任	2003 聖書100週間勉強会始まる 東ブロック合同ミサと茶話会 (於：カナディアン・アカデミー)
	パウロ・セコ神父 1966 誕生～ 2000.2 来日 2003.1～2007.4 共同司牧担当司祭	
シリロ神父 	4月 シリロ・オラデレ神父、着任	2004 神戸東ブロック共同司牧担当司祭 (諏訪神父・パウロ神父・シリロ神父)
	シリロ・オラデレ神父 1937.2. 誕生～2025.6 帰天 1962. 6 司祭叙階 2004.4～2012.4 共同司牧担当司祭	諏訪神父 
  	4月 聖堂お別れミサ・パーティー ミサ後ご聖体を三木館へ安置	
	5月 幼稚園地鎮祭、建物解体・樹木伐採	9月 池田実神父、帰天
	7月 幼稚園教室でミサ始まる。幼稚園起工式	10月 神戸中央教会献堂式

2005年～2015年



2005年～2015年

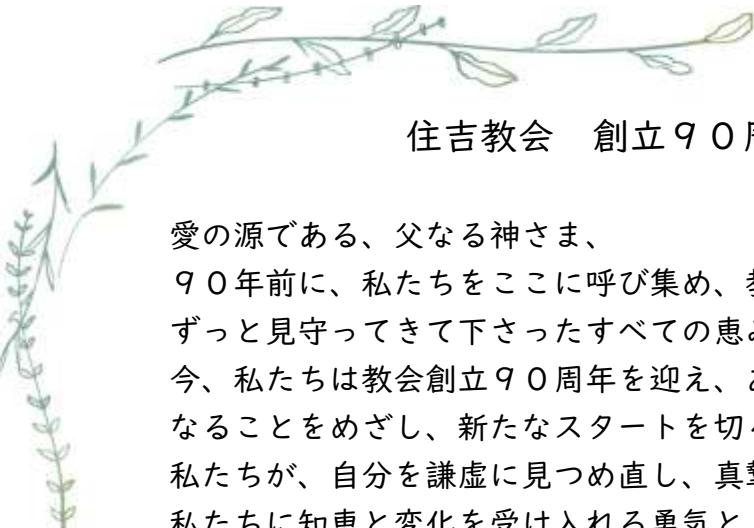
住吉教会内でのできごと	西暦	他
<p>コンスルタ神父</p>  <p>コンスタンシオ・C・コンスルタ神父 1979.3 叙階 2011.4～ 共同司牧担当司祭</p>	<p>4月 コンスルタ神父、着任 ← 2011</p>	<p>3月 東日本大震災発生 5月 ヨハネ・パウロ2世列福 5月 東ブロック合同堅信式（於：神戸中央教会） 6月 諏訪榮治郎神父司教叙階式 6月 神戸地区大会（神戸海星女子学院） 5月 ベロー神父送別会 於：鈴蘭台教会 10月『信仰年』開幕</p>
<p>オマリー神父</p>  <p>ジョン・オマリー神父 1963.3 司祭叙階 2013～2017.5 共同司牧協力司祭 2021.1. 18 帰天</p>	<p>4月 ベトナムのマン枢機卿 訪問 ← 2012</p> <p>1月 阪神淡路大震災追悼ミサ ← 2013 オマリー神父、着任</p>	<p>2月 教皇ベネディクト16世退位 2月 新教皇フランシスコ選出 3月 新教皇フランシスコ就任式 池長大司教参列 3月 山本英明神父司祭叙階式</p>
<p>傘木神父</p>  <p>傘木 澄男神父 1963.5 司祭叙階 2014～2018 共同司牧担当司祭 2018.8 帰天</p>	<p>4月 傘木澄男神父、着任 ← 2014</p> <p>5月 ブラッドリー・ロザイロ神父、着任</p>	<p>山本神父 </p> <p>トゥアン神父 </p> <p>5月 東ブロック合同堅信式（於六甲教会） 6月 神戸地区大会（淡路市）</p>
<p>ブラッドリー神父</p>  <p>ブラッドリー・ロザイロ神父 1989.3 司祭叙階 2014.5～2017.4 共同司牧担当司祭</p>	<p>6月 松浦悟郎司教 司牧訪問</p> <p>1月 阪神淡路大震災20周年追悼ミサ (神戸中央教会、住吉教会) ← 2015</p> <p>5月 教会創立80周年</p>	<p>3月 グエン・クオク・トゥアン神父司祭叙階式 4月 ヨハネ23世列聖 ヨハネ・パウロ2世列聖</p> <p>9月 前田万葉大司教着座 1月 大阪教区新生計画20周年開年ミサ 2月 ユスト高山右近帰天400年記念ミサ (神戸文化ホール) 5月 東ブロック合同堅信式（於：神戸中央教会） 5月 神戸地区大会(於：六甲学院) 6月 松浦悟郎名古屋教区司教着座</p> <p>12月『いつくしみの特別聖年』開幕</p>

2016年～2025年

住吉教会内でのできごと	西暦	他	
10月 セニヨール・デ・ロス・ミラグロス25周年 12月 「すみよし」第200号発行 4月 エマニュエル・ボボン神父、着任	2016 ← 2017	2月 溝部脩司教 帰天 4月 安田久雄大司教 帰天 2月 ユスト高山右近列福式(大阪城ホール)	
エマニュエル神父 	エマニュエル・ボボン神父 2017.4～2022.4 共同司牧担当司祭	6月 東ブロック合同堅信式（於：六甲教会） 8月 神戸地区大会(神戸中央教会) 10月 松本武三神父帰天 6月 神戸地区大会(丹波篠山) 6月 教区再宣教150周年開年ミサ 6月 バチカンにて前田万葉枢機卿叙任式 7月 ヨゼフ・アベイヤ、酒井俊弘大阪大司教区司教叙階式、前田枢機卿親任報告 8月 垂木澄男神父 帰天	
コーナン神父 	3月 前田万葉大司教 初司牧訪問 4月 ミシェル・コーナン神父、着任	2018 ← 2019	6月 ロジェ・ペロー神父 帰天 6月 東ブロック合同堅信式（於：神戸中央教会）
バルテレミ神父 	12月 酒井俊弘補佐司教 司牧訪問 4月 ルスタラン・バルテレミ神父、着任	6月 アベイヤ補佐司教 司牧訪問	 バリ・ミッショナリの神父様方
赤波江神父 	2月29日以降 新型コロナウィルス感染症緊急事態宣言に伴い公開ミサ中止 4月 赤波江 豊神父、着任 HP・メールによる「黙想のヒント」発信始まる 5月31日 新型コロナウィルス感染症緊急事態宣言の解除に伴い公開ミサ再開 8月 前田万葉枢機卿 司牧訪問	2020 ← 2021	インターネットによる大司教区ミサ配信始まる  12月 『ヨゼフ年』開幕 1月 ジョン・オマリー神父 帰天

2016年～2025年

西暦	他
2021	 <p>8月18日 大阪教区新型コロナウィルス感染症に伴う措置により 公開ミサ中止発表</p> <p>10月3日 大阪教区新型コロナウィルス感染症に伴う措置により 住吉教会公開ミサ再開</p> <p>ベトロ金台根神父、着任</p>
2022	 <p>10月 ドイツ語ミサ始まる</p> <p>12月 堅信式 前田万葉枢機卿司式</p> <p>5月 ジェロム・バダモ・サルトノ、着任</p> <p>1月 ジャン・マリー・ベンケレシ、神父帰天</p> <p>7月 生藤達男神父 帰天</p> <p>7月 諏訪榮治郎司教 名誉司教となる</p>
2023	 <p>4月 ブインガ・ブレーズ神父、着任</p> <p>1月 阿部眞理ブラザー帰天</p> <p>10月 シノドス(世界代表司教會議)開催</p>
2024	 <p>4月 谷口幸紀神父、ミサ協力司祭として着任</p> <p>4月 「シノドスについて」講演会</p> <p>9月 堅信式 酒井俊弘司教司式</p> <p>12月 バチカンにて菊地功枢機卿叙任式</p> <p>12月 通常聖年開幕 テーマ『希望の巡礼者』</p>
2025	 <p>4月 教皇フランシスコ帰天</p> <p>5月 新教皇レオ14世着座</p> <p>6月 シリロ・オラデレ神父帰天</p> <p>7月 カトリック住吉教会創立90周年記念ミサ</p> <p>10月 マリオ・コリーナ神父帰天</p>



住吉教会 創立90周年 記念の祈り

愛の源である、父なる神さま、
90年前に、私たちをここに呼び集め、教会を設立してくださり、
ずっと見守ってきて下さったすべての恵みに心から感謝いたします。
今、私たちは教会創立90周年を迎え、あなたの御心にかなう共同体と
なることをめざし、新たなスタートを切ろうとしています。
私たちが、自分を謙虚に見つめ直し、真摯に反省できますように。
私たちに知恵と変化を受け入れる勇気と
すべてをあなたに委ねる謙虚さをお与えください。
心からの愛をもって、弱い立場の隣人を思う分かち合いの共同体、
自らを低くし、清い心で兄弟姉妹と向き合い仕えあう共同体、
神の御心に従いイエス様の体を分かち合いながら、聖靈の働きに応える
一つにまとった共同体、そのような共同体になれますように。
恩寵の御手をいつも必ず差し伸べてくださる神さま、
愛によって結びつけてくださった住吉教会の共同体の私たちが
お互いに相手にとって一番大きな贈り物になれるようにお導き下さい。
私たち一人一人が愛し愛される信仰者としての生活を送れますように。
そして、たとえ、そばに共にいられない時にもお互いのために
祈ることができますように。



私たちの主、イエス・キリストによって、アーメン

住吉教会共同体の守護聖人である聖パウロ・三木、
私たちのためにお祈りください。アーメン。



金 台根神父様が2024年に「来年2025年は、カトリック教会の聖年であり、私たち住吉教会が創立90周年を迎える意義深い年です。そこで、ただ単に90周年記念で終わらせるのではなく、10年後の100周年に向けて、次のような感謝の時間を持ってみたいと思います。まず、祈る共同体の姿を大切にして、準備した祈りを1年間、集会や各家庭で捧げていただければと思います。」(2024年「すみよし」213号より)との呼びかけと共に作りくださったこのお祈りを、一年間ミサが始まる前に皆で唱えました。



住吉教会の十字架

評議会議長 フランシスコ・ザビエル H. S.

評議会議長の大任をお引き受けし、まだ短い期間ではありますが、90周年の色々な行事を通して非常に多くのことを学び、住吉教会が内外を問わず、いかに多くの方々に支えられてきたかを改めて実感することができました。それらの方々に心から感謝するとともにその想いを引き継ぎ、この教会が常に「キリストの愛と平和」を社会に伝えてゆくことができるよう、微力ながらも関わらせていただきたいと思います。

さて、創立90周年にあたり「住吉教会の十字架」について書かせていただきたいと思います。

「砂漠の隠遁者」と呼ばれたフランス人のカトリック司祭シャルル・ド・フーコー（2022年に列聖）は、自らが作製した十字架を秘蔵していました。

その十字架の小さな「複製」を所持していたベロー神父が、1956年の聖堂新築に際して職人に依頼し、それを聖堂用に大きく作らせました。

薄い木の板を組み合わせた十字架に、細い線だけでキリスト像を描いた「簡素な」十字架でした。子供の頃の私はその簡素さゆえに何か「物足りなさ」を感じていました。他の教会に見られたリアルな十字架は見た目には恐ろしいものでしたが、迫力が感じられました。しかし、いつの頃からか私は、住吉教会の簡素な十字架に「安らぎ」を感じるようになりました。

ミサの中でふと見上げた十字架のキリストの御顔の、なんと穏やかで慈愛に満ちていることか！

「ひせきにこもりて」という聖歌の中に「^く奇しきやすけさ」という言葉が出てきます。この言葉が「神秘的な安らぎ」という意味だとすれば、十字架のキリストを仰ぎ見たときに感じる安らぎは、まさに「^く奇しきやすけさ」です。

この十字架の原型を作製されたフーコー神父と現在の十字架を最初に住吉教会の聖堂に飾ってくださったベロー神父に感謝するとともに、この十字架がこれから先もずっと住吉教会と共にあらんことを心から祈らずにはいられません。



「世代をつなぐ祈りの家、すみよし」

副議長 マリア・クララ・シャンタル A. S.

住吉教会の草創期から祖父母が通い、やがて父と母がこの教会で出会って私は生まれました。家族の歩みと共に住吉教会の恵みの中で育てられたことを改めて感謝します。

振り返ると、いつも教会は私の傍にありました。星の園幼稚園に通えたことも大きな糧であり、また信徒の皆さんとの温かいまなざしの中、夏のキャンプや、教会学校、行事を通して成長期に多くの学びや思い出を得ることが出来ました。この中で私は音楽の道を目指し、キリスト教と密接な関係にあるパイオルガン専攻へと自ずと導かれていきました。

そして高校卒業目前、大震災で被災した時に、困難のただ中の希望の灯が教会であり、また共同体のつながりであり、そして身近な大人達が協力して立ち上がる姿を間近で見たことは、何物にも代えがたい経験となりました。

結婚式を旧聖堂の解体前に挙げることが出来、そして建設工事中に長女の洗礼式は幼稚園の園舎での仮祭壇で、次女の時には新聖堂で、と建物は違っても、共同体にいつも守られる中でお恵みをいただいてきました。

創立九十周年を迎える今、主のお導きの中で祈りが脈々と続く、ここ住吉が「わたしたちの家」であることを改めて深く感じます。

しかし特にコロナ禍以降、既に同世代や若者にほとんど出会うことがなく、閉塞感に覆われた現実は否めません。評議会の副議長としても聖堂の整備や、今後の在り方などを考える時期に直面していると感じます。

時代の移ろいの中で、宗教としての存続を超えて、信仰と恵みを如何に次世代に伝えるか、が私たちの使命であると思います。真理は継承される、と信じて御手に委ね、祈りを奏でて、守り繋いでいきたいと思います。



人生100年 住吉教会は？

元評議会議長（在任期間 1997.4～1999.3）ヨゼフ N. K.

創立90周年にあたり、思い出や感じたことについて述べたい。

一番の思い出は、阪神・淡路大震災であろう。震災で聖堂は亀裂が入ったが何とか使える状態、しかし司祭館は全壊し、生藤神父様の後任の諏訪神父様（現名誉司教）は掘立小屋のプレハブに住まわれ、「新生計画」（注）の実行に努力された。

住吉公園に設けられた「ふれあいセンター」や「ふれあい広場」を通じて仮設の方々や近隣の皆さんとの交流をはかった。

(注) 大阪教区新生計画の基本方針

①谷間に置かれた人の心を生きる教会へ

②交わりの教会へ

③共同責任を担い合い、協働する教会へ

④聖霊の導きを識別しながら、ともに歩む教会へ

⑤司祭・修道者の協力を重視しながら、信徒の役割と責任（使命）を前面に出す教会へ

しかしその後、時の経過と共に新生計画を覚えている人も殆どいなくなった。「谷間に置かれた人々」のための社会活動は続いている。これは立派なことだ。だが、活動中にカトリックに興味を持ち、教会に来るようになったという話は聞かない。また「司祭との協力を重視しながら、信徒の役割と責任を前面に出す教会へ」という方針も司祭依存体制は簡単には変わらない。残念なことだ。

今後の住吉教会について評議会OBとして次の3つを要望する。

1. 評議会は議題をスケジュールの確認や行事の消化に終始せず、各チームが年初に設定した目標の審議に重点を置いてほしい。
2. 信心の業（ロザリオの祈り、十字架の道行など）を大切にしてほしい。
3. 施設管理は計画的な予防保全を進め、その都度報告してほしい。



カトリック住吉教会 90周年記念誌に寄せて

元評議会議長（在任期間 1999.4～2001.3 2009.4～2011.3）

ヨゼフ T. K.

創立 90 周年を住吉教会共同体の皆様と共に喜びと感謝の内に迎えますことを心からお祝い申し上げます。

今から 100 年前に、兵庫の地にカトリックの宣教に専念されたパリ外国宣教会の神父様方の大きな働きが、関西で初めての夙川教会やその後の住吉教会の誕生となり、今日まで信仰が保たれていることに改めて敬意と感謝を表します。

私は 87 年前の 1938 年に夙川教会でメルシェ神父様から洗礼を授かりました。1975 年（昭和 50 年）に住吉教会共同体にお世話になってから本年でちょうど 50 年目を迎えます。その間に 2 回、（1999 年、2009 年の各 2 年間）評議会議長を拝命しました。

1 回目議長の時は阪神淡路大震災の後でもあり、司祭館は全壊、教会聖堂と幼稚園施設はかろうじて残ったものの、教会聖堂並びに幼稚園舎の再建が評議会にとっても喫緊の課題でした。

この2年間は教区への聖堂再建の認可取得が最大の目標で、申請書作成業務に終始しました。幸いにも任期終了間際の2001年春頃に教区から聖堂・幼稚園の再建が承認され、神戸中央教会聖堂献堂式（2004年）に続き、2006年に住吉教会聖堂、星の園 幼稚園園舎の合同献堂式に繋がり幸いでした。

これまでの教区の多大のご支援と神父様方のご指導に心から感謝します。
これからも住吉共同体の皆様と共に感謝と祈りの内に心豊かに歩めますよう願っています。



新しい教会と「希望の韓国巡礼」

元評議会議長（在任期間 2006.4～2009.3 2012.4～2018.3）

レオ・烏丸 T. U.

ソウル大司教区から派遣されたキム・テゴン神父様が住吉教会・神戸中央教会へ赴任され、新しい教会と希望の韓国巡礼が始まりました。

四旬節黙想会にソウル大司教区補佐司教が来日され、講話をいただき、住吉教会も隣人同胞と協力する世界のカトリック教会の一つであることを強く感じました。昨今の世界の政治・社会の右傾化、外国人排斥を声高に叫び、票を取ろうとする動きが世界的に蔓延しています。外国人の人々が日本からいなくなると、日本人司祭は高齢化で少なく、ミサもなくなり、深夜勤務で作られたお弁当が買えなくなり、中東のガソリンもなく車も走れません。グローバルな世界環境の中で日本人が生活していることはすぐわかることです。

その中で、希望の韓国巡礼で韓国と日本は同胞として協力して活動して行くということを体験し、学ばせていただきました。

釜山、済州、ソウルの3回の巡礼の中で韓国と日本の歴史を振り返り、共に祈る貴重な経験です。辛いのが苦手な私ですが、辛くない韓国料理もたくさんいただきました。昨年12月の釜山の素晴らしい紅葉も忘れることができません。済州の4・3事件記念館にも行きました。中国・アメリカ・韓国・日本のラインの中で戦後すぐ起きたこの事件の詳細を日本人も絶対知るべきです。

なお、新長田のハングル講座と長田在日大学という講座も受講しています。
ハングルの漢字語は日本と同じです。在日コリアンの歴史を学ぶと世界に同胞がおられることがわかります。日本との関係も古代から深いです。

11月22日から2回目の大邱（テグ）に行き、共感（コンガン）ゲストハウスに宿泊し、もう一つの韓国ツアーを体験する予定です。

住吉教会 90 周年によせて

元評議会議長（在任期間 2019.4～2023.3）ラザロ K. N.

私は 1956 年に生まれ、この教会で幼児洗礼を授かり、ずっとお世話になっています。子供の頃のごミサは司式司祭が祭壇の方を向きラテン語ミサでした。祭壇の前に横長の拝領台があり、跪いてご聖体を口で拝領していました。第二バチカン公会議後、日本語のミサになり、私はミサの内容が少しずつ理解できるようになりましたが、外国人の神父様方は日本語のミサに大変ご苦労されたと思います。

その後、拝領台が無くなり、聖変化の時に跪くことも無くなり、パリ・ミッション会から離れて邦人司祭が続くのですが、池田実神父様以降、松本武三神父様まで、多くの神父様方と青少年期の多感な時期に出会い、信仰、祈り、聖書のことなどを学びました。

仕事が忙しくなり教会活動から離れていましたが、還暦を過ぎて少し時間に余裕ができた途端、評議会に参加しろとのお誘いがあり、副議長職を経て 2019 年 4 月から 2022 年 3 月まで評議会議長を 2 期勤めました。神戸地区評議会や神戸中央・六甲との東ブロック会に出席し、定期的に意見交換をする機会を得て、若い頃に出会った他教会の元青年との再会もありました。

在任期間中の大半は新型コロナの対応に追われ、ごミサを含めて教会活動は休止状態でした。初めは教会を完全に閉鎖しましたが、ご聖体の前で祈られる方の為、感染状況を見ながら、日曜日は聖堂を解放しました。赤波江神父様が戻って来られて、主日のミサ、朝ミサが再開され、ごミサのない他教会の方も来られ、参加者の把握や消毒液・マスクの手配が必要でした。

阪神淡路大震災以来の苦境でしたが、平穏な生活に戻り、今日を迎えたことを神様に感謝します。



評議会、ペトロ金神父そして住吉教会

元評議会議長（在任期間 2023.4～2025.3）パウロ A. S.

2023 年 4 月に議長になり、赴任されたペトロ金神父様と一緒に仕事に取り組みました。神父様は自分なりの思いをこめ、典礼をとても大切になさり、例えば聖木曜日の洗足式。参加信徒は司祭と共に入堂し祭壇後方で待機するという具合。聖フランシスコ（アッシジの）修道者の記念日には信徒のペットを祝福してくださいました。主日ミサのお説教にもこだわられました。ミサ直前のスライドがまとまった時点で 30 枚も画像が届き、慌てた事も懐かしい思い出です。また信徒の要望を入れてシノドス講演会・高山右近の列聖祈願・袴田事件への対応を取り上げて下さいました。平和旬間行事には神戸新聞平和賞を受賞された正井禮子氏の講演会「女性の視点で災害をとらえる」を企画されました。

星の園幼稚園との関係も重要です。もともと阪神大震災で全壊し、教会としての存続も危ぶまれました。しかし、住吉教会は幼稚園が併設されているお陰で再建できた経緯があります。その後、少子化に備え認定こども園への組織替えを意図した幼稚園より協力を求められました。『園庭に新園舎を建設する事を認めてほしい。』これを評議会および信徒も了承。工事も無事に落成し、この春より幼稚園も新たなスタートを切りました。

築後 20 年を経た聖堂施設管理の問題もあります。2 年前に水回りの工事を行いました。他にもエアコン・照明の LED 化等ありますが、評議会および信徒の皆さんで連携しながら対処していくかと思います。

コロナ禍で中断されていたバザーやバーベキューも皆で相談して現状に即した形に手直しました。そうして、皆で楽しい一時を過ごすことができました。

2 年間どうもありがとうございました。



財務チーム紹介

財務チーム長 ヨハネ・ボスコ O. K.

クリスマスおめでとうございます。今年は教会創立 90 周年を迎えた特別な年でもあり、少しでもこの行事に関われたことに感謝しております。

さて、現在の財務チームを紹介します。メンバーは滝川さん、谷澤さん、古川さん、清原（恵）と清原の 5 名で財務を担当しています。私事ですが 2003 年 11 月に妻（恵）と住吉教会に転入した最初に与ったミサの後、滝川さんから「財務を手伝ってほしい」と要請を受け、当時の教会司祭館の 2 階事務所で各献金の整理業務を指導していただき、その時すでに谷澤さんと古川さんは財務で会計に携わっておられました。以来「不動の会計五人組」として今に至っています。

それでは財務チームの業務って何をしているかをご紹介しましょう。教会維持献金、堂内献金、一粒会、営繕献金等各献金・募金をそれぞれ科目ごと手分けして伝票を作成します。最後にすべての伝票を集計し（この瞬間ちょっと緊張しますが）現金と伝票合計の金額が合致すれば業務は完了です。

一方、ミサ毎の集計業務とは別に四半期毎に評議会へ提出する予算進捗表、教区に提出する月次報告書・中間を含む決算報告書・次年度の予算案等の作成があります。特に予算については新型コロナウイルス感染拡大以降、昨今の物価上昇も含めここ数年の予算立案がとても難しく悩ましくなってきています。

住吉教会は現聖堂献堂以来 19 年を経過し教会建物の維持も大切ですが、本来、教会の基本である福音宣教・信徒の司牧、また弱い立場の方々をサポートしている団体への支援等を考慮しながら、どのようにすれば実行できるか他チームとも連携しながら、今後は皆様からお預かりしている献金を有効な目的に予算化できるよう財務活動を推し進めたいと考えております。

『住吉教会との出会い』

典礼チーム 幼きイエズスのテレジア A. K.

1970年のご復活祭、母と私は住吉教会で池田実神父様から洗礼を受けました。ある日主日のミサに行くと、その後赴任された飯島幸一神父様が「オルガン弾く人がいないから何でも良いから弾いて！」と、右も左もわからない高校生の私におっしゃいました。度々ミサ直前に急遽曲を選び、慣れない足踏み式オルガンを恐る恐る弾いた五十数年前のことを今でも覚えています。

大震災の後、信徒のご婦人から「教会にオルガンを寄付したい」とお申し出があり、パイプオルガン専門の楽器店へ長女と相談に行き、オルガニストの方の紹介でプロテスタント教会のオルガンをいくつも見て回って検討し、1997年に購入しました。

評議会もチーム制発足となり、典礼チームはレジオと聖歌隊とで、それぞれの仕事を分担していました。メンバーは入れ替わりもありますが、典礼チームの仕事は今も変わらず、年間を通して

- ・ミサの準備、片付け・「典礼奉仕者当番表」作成・ミサ聖歌選定
- ・典礼備品の発注（ホスピア、ワイン、蝋燭、『聖書と典礼』等）
- ・洗濯（祭具を拭く布、手拭き布、司祭の祭服、侍者服）

[年間行事]

- ・聖週間／復活祭（3～4月）・平和旬間（8/6～15）・聖母マリア被昇天（8/15）
- ・敬老祝（9月）・セニョール・デ・ロス・ミラグロス（10月）
- ・追悼祭／七五三（11月）・待降節／降誕祭（11～12月）
- ・成人式（1月）・聖パウロ三木お祝い／世界病者の日（2月）
- ・灰の水曜日／四旬節（2月～4月）

[その他]

- ・洗礼式・結婚式・通夜、葬儀・堅信式・初聖体 等

現在は20名程毎週火曜日10時から集まって、聖歌隊練習と、その都度必要な仕事をしています。祈りながら、歌いながら、相談しながら、神様に心から感謝のうちに楽しく活動を続けています。



司牧チーム

マリア・アグネス R. K.

住吉教会が始まってから90年。

ずっと新人だと思ってきた私も、数えてみたらこの共同体でほぼ35年を過ごしていました。受洗してまもなく婦人会役員にさせられて（？！）先輩方の献身的なお働きを学び、また親しくなれました。本田さん、山口さん、奥村さん、岡本さん、なつかしい。

ミサの順番も、初めて見る詩編唱の楽譜もびっくりのまま、旧聖堂の足踏みオルガンを弾かされました！！それ以来、聖歌隊の皆様～なつかしい網谷さん、松田さん、小田さんや、同年齢で家も近かった井本さん、未信者の時からのお姉さん安本さん～とは今に至るまで、一番のお仲間です。

バイブルハウス他からの旅行で、聖書の地イスラエルを見、トルコやスペインを体験できたのも良い思い出です。自由に行かせてくれた家族にも感謝。

阪神淡路大震災の後にはみんなでボランティアにも励みましたね。山際さん、岡本さん、坂井さん、山内さん、天国さん、児山さんなつかしい。

司牧のお仕事を仰せつかってからは、さらにたくさんの方々を知りました。忘れてならないのは、小島勝人さん。主日のミサに与るためにたくさんの老齢の方々を、ご自分が亡くなる間際まで、送り迎えしてくださっていました。感謝！教会になかなか来られなくなることは、自分にとっても切実な問題です。

病気や心配事で下を見ていた時期もありましたが・・・“いつも希望を失わずに上を向いていよう”という教えは、残り少なくなってきた生命のおわりまで持ち続けていたい！神さま見捨てないで！なんだか私の“エンディングノート”的ですね。

世界には、たくさんの国籍、年齢、性別そして感じ方、考え方、意見があり、教会の中も同じでしょう。今世の中がどんどん変化し、人ととのつながりが薄れていっています。すべてを神様が創造されたと信じる私たちは、せめて教会共同体として、お互い知り合い助け合って“平和”を実現できるよう努めてまいりましょう！

家庭集会や平日集会が難しくなってきた今、ミサゴを利用して気楽な集まりはどうでしょうか？青少年チームがあるのだから、子育て中のお父さんお母さんの会、定年後の男性の会、はたまた働き盛りの会、そして高齢者の会、外国ルーツの人等々～どなたか声をあげて、おしゃべりできたら楽しいのではないでしょうか。



社会活動チームの活動

マリア・ミカエラ Y. K.

I. シナピス神戸（神戸中央教会）　社会活動センターへの協力

- 炊き出しは震災後、毎日行っていましたが、「邪魔だ」ということで場所の移動を余儀なくされ、現在は毎週火・木・土曜日に小野浜公園で行っています。越冬越年にはお雑煮なども提供され喜ばれています。
- クリスマスチャリティーコンサートを毎年12月に開催して、生活困窮者・野宿者を支援する為の活動支援金の募金をお願いしています。神父様方のバンド演奏もある楽しいコンサートです。
- 外国航路の船員さんに手編みの毛糸の帽子を届けていますが、きれいな色合いのものは、お国の家族へのお土産にされることもあるそうです。

2. シナピス大阪（玉造教会） 社会活動センターへの協力

難民移動移住者へ食料品やお菓子を毎月お届けしていますが、楽しみにしていただいているそうです。緊急事態が多くなり急なお金が必要になることもありますので、寄付金もお願いします。

3. シャプラニール（市民による海外支援の会）への協力

未使用・使用済みの切手、はがき、インクカートリッジを年1回送って、南アジアを中心に支援の届いていない「取り残された問題」への活動に協力しています。いずれも誰かの幸せに繋げたい思いの小さな活動です。



住吉教会再建の思い出

タルチシオ O. T.

1995年1月の阪神淡路大震災によって壊滅的な破壊を受けた住吉教会と星の園幼稚園の再建を振り返ってみたいと思います。再建は大きく以下の3つの時期に分けられます。

① 1995年（震災の年）までの10年間

もともと築数十年経った木造建築のため老朽化が進み、再建について教会内で勉強していた時期です。並行して積立金も1.4億円ほどになっていました。ただ期限があるわけではなく、ある意味でのんびりとやっていた時期とも言えます。

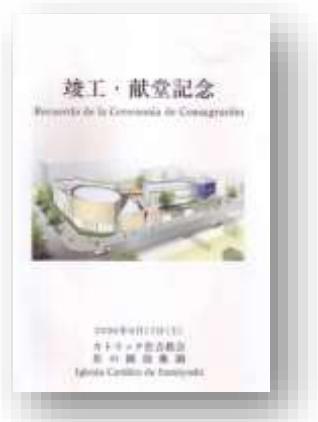
② 1997年～2002年までの5年間

震災により建物が大きく破壊され、建て替えが必要となった時期です。震災の後始末などを終え、「住吉共同体を考える会」と名付け、教会独自で新しい教会のコンセプトや建物の配置等ハード面についても勉強した時期です。ただこの時期は、司教館の移転や阪神・神戸地区の教会の統廃合が進み、果たして住吉教会は今後残れるのかどうかも不透明で、色々な噂も飛び交い、不安な日々を過ごした時期でもありました。

③ 2002年6月～2006年6月

それまでの勉強をベースに、司教区、設計会社も入り教会のコンセプト作りとそれをどう設計に生かすか議論した時期です。一番激しく議論された時期で、誰にとっても苦しかった時期だと思います。最後の2年間は教会と幼稚園の建設工事期間に当たります。

このような経緯を経て、「教会とは建物ではなく神に向かう人間の心である（パウロ・セコ神父）」こと多くの事を学んできたと思います。それらを生かし、これからも教会創りは続くと思います。



宮繕チーム

ガブリエル A. W.

住吉教会は創立 90 周年を迎えました。創立当初、主任司祭の指導のもと、信徒が力を合わせて教会を支えた歩みが今日まで受け継がれていることを思うとき、私たちはその精神的遺産の尊さをあらためて感じます。

阪神淡路大震災後の「新生計画」を契機に、住吉教会では評議会のもと、チーム制の組織が発足し、信徒一人ひとりが役割を担う新しい体制が築かれました。宮繕チームもまたその一翼として、聖堂や諸施設の維持管理に取り組み、今日まで歩んでもまいりました。

声をかければすぐに集まり、笑顔で知恵を出し合いながら前向きに課題を解決していくチームワークの良さ、——これが私どもチームの良いところです。

例えば、

達人 A：東面フェンス内および東南フェンス内の植栽管理

達人 B：掃除当番表の調整・宮繕チームのまとめ役（司令塔）

達人 C：破損箇所の修理全般

達人 D：記録・記録管理

この様に、それぞれのタレントを生かしながら力を合わせ、動いております。楽しみながら取り組むことで、聖堂をこれからも大切に守り続けていけると感じています。

三年間鉢で育ててきたコニファーを、90 周年のシンボルツリーとして聖堂前に地植えしました。100 周年、さらにその先へ向けて、これからどのように成長していくか、皆で見守れることも楽しみの一つです。

これからも、小さな力を寄せ合いながら、祈りの場を次の世代へ確かに引き継いでいきたいと願っています。信徒の皆さんと共に、温かな共同体の支えとなる宮繕活動を続けてまいります。



養成チーム

ラファエラ Y. N.

カトリック住吉教会創立 90 周年、心よりお慶び申し上げます。

90 年の長きにわたり信仰の拠点であり続けたのは、教会の歩みを温かく見守り、導いてくださった神父様方と先輩信徒の皆様のお祈りとご尽力あってのことと、深く感謝いたします。

養成チームは、この深い信仰を次世代へと繋ぐべく、洗礼や初聖体、堅信準備講座をはじめ、神戸地区全体での講演会、奉仕者研修会、教会学校、青少年育成などの多岐にわたる活動に取り組んでまいりました。

この90周年という節目は、世代を超えて紡がれてきた絆のなかで、互いに支え合い、神様との出会いを深めてきた共同体の温かさを、改めて実感する機会となりました。この、何ものにも代えがたい結びつきこそが、住吉教会の宝です。

住吉教会が「ともに歩む教会」という神様のお導きを道しるべとして、100周年、さらに未来へと力強く歩んでいかれることを確信しております。

主の豊かな祝福が皆様の上にありますよう、お祈り申し上げます。



子どもたちと共に歩む教会学校

マルタ M. U. マリア・ソフィア M. S.

教会学校の前身は、教会と隣接する星の園幼稚園の土曜日の保育後、園児の自由参加から始まりました。その延長として、現在、教会学校は第1・第3土曜日の午後、信者に限らず、未信者、星の園幼稚園出身の小学生が集う場として続いています。神さまのお話やお祈り、聖書の読み聞かせ、分かち合いなどを行い、第3土曜日には侍者や聖書朗読、奉納を子どもたちが担い、ミサをしています。時には、工作や父の日・母の日のプレゼント作りなど、楽しみながら信仰に親しむ時間も大切にしています。外遊びやおやつの時間もあり、かつてはお母さま方の手作りのお菓子が並ぶこともありました。

その時代によって、神父様方の関わり方はさまざまですが、これまで多くの国から来られた神父様方との交流は、子どもたちにとって心に残る体験となっています。リーダーは子育て経験のあるメンバーが中心で、元気な子どもたちとのふれあいに苦労もありますが、いつも笑顔とエネルギーをもらっています。

コロナ前は、川遊びや夏のキャンプ、冬の遠足、クリスマス会の聖劇など、にぎやかな活動が続きました。キャンプは50人を超える子どもたちが集まった時代もありましたが、近年は少子化やコロナ禍の影響で参加者が減少し、教会学校のあり方を見直す時期に来ているかもしれません。

それでも、子どもたちにとって教会学校での体験が、将来、人生に悩んだり寂しさを感じたときに、神さまの愛を思い出し、生きる力となってくれればと願っています。これからも、子どもたちの心に残るあたたかな場であり続けたいと思います。



90年のお祝いに寄せて

アグネス A. S.

今年の春よりチーム長を務めております坂本碧衣と申します。小さい頃から、お兄さんお姉さんたちが楽しそうにキャンプに出かけたり、神父様と一緒に食事会をしたりしている姿を見て、「いいなあ、もう少し早く生まれていたら一緒に入れたのに」と母と話していたことを思い出します。

それから年月が経ち、今では活動らしいことができておらず把握できているメンバーも、いとこ達を含め数名程度です。私自身も大学二年生となり、なかなかミサに行くことができずチーム長として申し訳なさを感じています。

私は幼児洗礼を受け、星の園に通い、教会学校ではお母さんたちの手作りおやつを楽しみに参加していました。お泊まり会や中央教会との合同キャンプにも参加し、中学生までは侍者の奉仕も続けていました。

しかしこロナの時期、マスクを日曜日にも着けなければならないのが苦痛で、次第にミサから離れてしまいました。もしあの時期がなければ、また違った形で関わっていたかもしれません。しかし今はこの現実を受け止め、私たちの世代がどのように教会に関わっていけるかを考えています。

これからどのような活動ができるか、まだ答えは見えていませんが、この90周年という節目を新しい出発点として、神様を信じる心を自分なりに大切に、これから的生活の中で学び、伝えていけるよう努めてまいります。



ホームページ委員会

十字架のヨハネ S. K.

教会の行事のニュース、ビデオをホームページでご覧になったり、ミサや行事の最新予定をホームページでチェックされていることだと思います。現在、大勢の皆さんに協力していただいて日本語のほか、英語、スペイン語でホームページを運用しています。

2020年2月末から5月末新型コロナウイルス流行のために公開ミサが中止となりました。この間ホームページとして何か出来る事はないかとエマニュエル神父様にお伺いしました。説教の要旨をいただけないかお願いした所、説教というよりは默想のヒントという形で原稿をいただき掲載することが出来ました。默想のヒントは赤波江神父様に引き継がれて、その後引き続き毎週土曜日にホームページに掲載するとともに小教区連絡網で発信しています。

主日ミサの説教録音は従来CDで貸し出していましたが、2022年のクリスマスからホームページで聞いていただくことができます。お試しください。かつてインターネットはパソコンで視聴していたものがスマートフォン主体に変わってきたため住吉教会でも2019年からスマホでもパソコンでも見やすくなるようにホームページ全般の改造を行いました。

ホームページは、一人でも多くの方に教会に興味を持っていただくこと、信徒の皆さんにはタイムリーな情報源として利用していただけることを目指してまいります。個人情報や著作権に注意しながら進めてまいりますので皆様ご協力よろしくお願ひいたします。

参考

2007年8月に運用開始して、ミサ予定、お知らせ等を掲載。

2009年4月運用体制が出来ていなかつたため更新が停止、信徒から教会行事日程更新の要望。

2009年7月19日、ホームページ委員会の設置が評議会で承認。



<https://cath-sumiyoshi.sakura.ne.jp/>



広報チーム

マリア・ゴレッティ M. H.

広報チームは

*住吉教会の活動を教会内外にお知らせしています。

パソコン、スマホが普及し住吉教会でも多くの方のご尽力でホームページ委員会が設置され最新ニュースも画像もいつでも身近にみられるようになりました。

*掲示板の管理・図書の整理・新刊図書購入。

*教会誌「すみよし」を年1回クリスマスに発行。(2階の図書コーナーには
「すみよし」のバックナンバーが揃っていますのでご覧ください)

広報チームは前身が「すみよし」編集部、教会誌の「すみよし」を発行するための存在で、震災までは原稿の依頼、校正、編集をして印刷は印刷屋さんにお願いする体制でした。震災までの「すみよし」をご覧になると紙面に医院、会社、お店の広告がたくさんあります。これは印刷費用を出すために信徒の方々や近くのお店へ伺ってお願いしていたもので当時のメンバーは編集以外の事もされていて頭が下がります。

地震後3か月目の復活祭に「すみよし」はどうなる?という時に既に世に出ていたワープロを使ってできる!と編集部、そして編集部以外の教会の多くの方達のお助け、お叱り、お励ましを頂いて完成したのが第136号でした。

2006年にはB5判からA4判になり読みやすくなりました。

創刊が1952年、草創期に活躍して下さったT. A.さん、K. K.さん、A. M.さん。その先輩方の指導を受けながらY. H.さん、J. Y.さん、A. H.さん、M. M.さん、Y. I.さん、お懐かしい方々です。

神様のお見守りを頂き、歴代の神父様方、教会の皆様、広報の諸先輩のお世話になりながら時代と共に若い方々にバトンがつながって創立90年のお祝いが出来ることは感謝でいっぱいです。これからもお支え頂きますようお願い申し上げます。

SEÑOR DE LOS MILAGROS

KOBE-JAPÓN

"34 Años La Tradición Continúa"

J. C.

El SEÑOR DE LOS MILAGROS , es una pintura de la Crucifixión de Cristo ubicada en el Altar Mayor del santuario de la Iglesia de las Nazarenas en la ciudad de Lima-Perú.

Nuestro homenaje se remonta al siglo XVII (1650), cuando un esclavo de Angola pintó al SEÑOR en la pared de la Iglesia ,después de un devastador terremoto que destruyó casi toda la Ciudad ,la imagen milagrosamente quedó intacta ,es aquí que marcó el punto de partida de la devoción al SEÑOR DE LOS MILAGROS, perdurando por siglos, con una devoción profunda de los fieles,que celebramos en el mes de Octubre en Lima Perú actualmente dicho homenaje se realiza a nivel mundial como en EEUU Alemania,España ,toda Sud America por los milagros recibidos ,ahora también en Japón ya hace 34 años tal es así que Santo Padre Juan Pablo II mencionó en la plaza Mayor de Vaticanocomo Patrón de los migrantes .

HOMENAJE EN JAPON Sumiyoshi - Kobe

En año 1990,mi esposa (Gladys García Inami) viene a Japón ,me quedé con mis tres hijos en Perú, fuimos a participar de la procesión en las Nazarenas (Octubre 1990) y dentro de ese mar de gente se me extraviaron y ya agotado de buscarlos por buen tiempo me puse a orar al SEÑOR con una promesa que al aparecer me comprometía a continuar con su homenaje a donde quiera que yo vaya ,luego de orar doy la vuelta y allí estaban mis tres hijos,cumpliéndose el milagro ,al llegar a Japón con ellos al año siguiente (1991),le conté al sacerdote Tomita(QEPD) lo sucedido y desde entonces se realiza el homenaje al SEÑOR DE LOS MILAGROS con la Misa y Procesión y una gran fiesta aquí en SUMIYOSHI.

Ya años después de nuestro legado rinden este homenaje en otras ciudades de Japón. Nuestra Iglesia Católica Sumiyoshi éste 19 Octubre 2025 cumplimos 34 años rindiendo homenaje al SEÑOR DE LOS MILAGROS.



奇跡の主（セニョール・デ・ロス・ミラグロス）
神戸 — 日本

「34年、伝統は続く」

国際チーム J. C.

「奇跡の主」とは、ペルー・リマ市にあるナザレナス教会の聖域の大祭壇に描かれた、キリストの磔刑の絵です。

この起源は17世紀（1650年）にさかのぼります。アンゴラから連れて来られた奴隸がこの像を教会の壁に描いたのですが、大地震で街の大部分が崩壊した際も、その像は奇跡的に無傷のまま残りました。これが「奇跡の主」への信仰の出発点となり、数世紀にわたり受け継がれています。ペルー・リマでは毎年10月に、信者の深い信仰を込めて大規模に祝われています。

現在ではこの行事は世界各地（アメリカ、ドイツ、スペイン、南米諸国など）でも行われ、奇跡を受けた人々が感謝を込めて捧げています。そして日本でも34年前から続けられています。教皇ヨハネ・パウロ2世もバチカン市国のサン・ピエトロ広場で、この行事を移民の守護者として言及しました。

日本・住吉（神戸）での奉納

1990年、私の妻（グラディス・ガルシア・イナミ）が日本に行きました。私は3人の子供と共にペルーに残っていましたが、ナザレナスでの行列（1990年10月）に参加しました。その群衆の中で見失ってしまった子供達を長時間探して疲れ果ててしまい、奇跡の主にお祈りして、再会出来ればこれから先には私が何処にいても主に敬意を表しますと約束しました。すると、振り向いたら、目の前に3人の子供達がいました — 奇跡が起きました。

翌年（1991年）私は子供達を連れて日本に来ました。この体験を富田神父様（2022年帰天）に話し、それ以来、神戸・住吉で「セニョール・デ・ロス・ミラグロス」のミサと行列が行われるようになりました。現在ではこの住吉での行事は、神戸だけではなく日本各地でも広がり、盛大に祝われています。

本年2025年10月19日、カトリック住吉教会において、私達は「奇跡の主」への奉納34周年を迎えました。



教会と私、未来へのバトン

ルカ H. T.

私は父からの誘いもあり婚約を記念して、妻と一緒に公教要理を受け住吉教会で洗礼を授かり結婚した。父は朝早くから散歩とミサに与かり、昼は暇があれば自室で聖書を読んでいた。そして後になって父の聖書を手にして驚いた。至る所に赤線が引かれ「毎日一章を二回読むことを日課とし、既に三回は読破した。死ぬまで続けよう」と書いてあった。父の行いは私に良い信仰の模範であったのに、私はそれも出来ていない事に気づき、些か心残りである。

教会で印象に残っている出来事は、やはり「阪神淡路大震災」の事だった。私の近所の家屋はほとんど倒壊して多くの方々が犠牲になられていたので、教会の事が気になり急いで駆けつけた。門扉は歪んでいたが小門からは入ることが出来た。聖堂は何とか持ちこたえていたが、司祭館は倒壊してしまっていた。生藤神父様を捜していると、ご自分で何とも無かつたかのように瓦礫の中から這い出してこられたのにはびっくりした。そして、いつもの優しい眼差しで、笑顔を浮かべられ、ご自分のことより私に「大丈夫でしたか」と温かい言葉を掛けて下さった。そのお姿は、今も忘れない。

私が属していた教会建設委員会では、星の園幼稚園の事もよく議題に上り、園児の教育だけでなく、その父兄にも交流を深める事が宣教活動に大切であるとされた。また地域の方々との交わりも深め、教会の行事などにも参加していただけるように呼びかけていこうと話し合われた。

今後、更に開かれた明るい教会になれば良いと願っている。



M. K. さんのこと

パウロ Y. Y.

パリ・ミッション会から日本人司祭に移った時、当時の神父さん達2人の名前を取り“JBDR”という青年の集まりができました。その中心人物が勝人さんでした。クリスマスや復活祭のパーティーを企画したり、日曜学校、夏のキャンプレーダーをやったりしました。



葬儀ミサの説教で矢野神父さんが説明されたように、Mさんは「強烈な人」でした。しかし、高齢者の送迎をし、初めて教会に来られた人には必ず声を掛けていました。

私事ながら、私の妻は初めて住吉に来た時にMさんに呼び止められ、住吉に通うようになりました。そして、キャンプリーダーに参加し私と出会いました。CKさんも、私の大学の同級生で、キャンプに誘ったのがMさんとの出会いのきっかけです。

Mさんは、物言う人でした。それで葬儀ミサの時、「これからMさんに代わって私が物言う信徒になろう」と考えたのでした。



住吉教会 卒寿のお祝いおめでとうございます

マリア・ジョセフィーナ J. Y.

90年という長い年月、この土地に誕生した住吉教会の聖堂は3代目になりましたが、変わらず残っているこの親しみやすい暖かな雰囲気の中で集うことが出来ております。

私と住吉教会には不思議なつながりがあると感じています。1933年に生まれた私は1935年に住吉教会が建つことになる場所の近くに住んでいました。しかし、1938年に発生した阪神大水害で、住吉川の氾濫は魚崎駅西側の堤防を越えて、その下の住宅地のほとんどが流されてしまいました。4歳だった私は雨の中、陸軍の方の背中に負ぶわれて祖父母の住んでいた神戸市葺合区まで避難しました。

それから再び住吉教会を訪れることになった時には50歳になっていましたが、幼少時からの縁を感じました。

受洗前に松本武三神父様の聖書講座を毎週拝聴して、1986年ご復活祭の日に洗礼を受けることが出来ました。その後、当時星の園幼稚園のシスター・エスティルのお話を伺っている時に、ハイハイしながら私達の靴下をチョンチョンとさわっていく、とても可愛らしいお子様と共に時間を有したことは私の大事な思い出です。

婦人会などでも活動させて頂きましたが、新年会を催しましょうと決めて教会から帰った2日後に起きた阪神大震災は忘れ得ぬ出来事となってしまいました。

2代目の聖堂や司祭館が被害を受け損壊してしまった様子を目の当たりにした時は本当にショックで心が痛みました。残っている棟を修理したり、汚れた床を拭いたりしながら、3代目の聖堂が建つまで見守ることしかできませんでした。

歴代の神父様、シスター方、多くの信徒の皆様に支えられて2008年に現在の聖堂が完成し、その日を迎えたことを感謝いたしております。

「ただいま」

パウロ M. T.

令和6年1月に私達は転居により東京から住吉教会に転入してきた。私は昭和30年代幼稚園の頃から中学2年の夏まで住吉教会に所属していて初聖体も堅信もこの教会で授かってた。当時、ミサはラテン語で行われていて子供ながらに意味も分からずラテン語のお祈りを唱えていた記憶がある。当時の主任司祭はパリ・ミッション会のベロー神父さん、フランス語は「H」の発音が難しいのか、お説教の中で時間の「八時半」の事を「アチジアン」と言っておられたのを印象深く覚えている。



住吉教会時代の思い出は何と言っても教会学校のサマーキャンプだ。坂越、由良、淡路といろんなところに連れて行って頂いた。その時お世話になったリーダーは叙階前の松本錦治、三朗のご兄弟で、私は生意氣にも「きんちゃん」「さぶちゃん」と呼ばせてもらひながら楽しい時間を過ごさせて頂いた。そのご縁もあって私共の結婚式の司式も当初松本錦治神父さんにお願いしていたが、ご病気の為それもかなわず、最終的には松本三朗神父さんに司式して頂いた次第である。

この度60年ぶりに住吉教会の信徒として戻ってきた。震災を経てお聖堂自体は以前の建物とは変わっているが、皆さんのが暖かな雰囲気でアットホームな居心地の良さを感じながら日曜日の御ミサに与っている。祭壇の上のイエズス様の「おかえり」という声が聞こえてくる様な気がしている今日この頃である。

転入の記

ベロニカ C. T.

東京から夫の故郷である神戸に居を移してから、もうすぐ2年となります。海と山が間近にあり、美しい自然に抱かれたこの地は既に私の心の故郷になりつつあります。緑豊かな六甲山を仰ぎながら毎週この住吉教会に通い始め、その間に多くの方々にお世話になりましたことに心より御礼を申し上げたいと思います。御ミサで転入の御挨拶をしました時に、お二人の方から直ぐにお声をかけて頂いたことは大変嬉しく、住吉教会のお仲間に加えて頂いたのだと実感し、神のお計らいに感謝する次第です。このような家庭的で温かい信仰共同体としての存在は、複雑な現代社会で生きる私たちにとって大変貴重なものだと思います。

これからも住吉教会が、神により頼む教会、神への感謝に満ちた教会、喜びと慈しみに溢れた教会、社会に開かれ出向いて行く教会、何人も受け入れる教会、互いに敬い支え合い許し合う教会として、希望への道を皆で手を携えて歩んでいくことができますようにお祈り申し上げます。



住吉教会九十周年を迎えて

マリア・セシリア M. T.

私にとって住吉教会はずっと生活の中心でした。

十五年前に九十六歳で亡くなった父は、創立当時関学の学生で、昨年百一歳で亡くなった母も父と結婚と同時に住吉教会に八十年余り在籍していました。

私が学生の頃は青年が沢山で、教会学校も聖歌隊も私達青年が活発に活動していました。

ちょうど、第二バチカン公会議が終わって、ラテン語の御ミサから日本語に変わった時で、典礼聖歌が出来はじめた頃で、歌いにくい典礼聖歌より歌い慣れたカトリック聖歌集のきれいなマリア様の曲を多く決めて、助任のコーナン神父様からクレームを頂いたりしていました。

夏休みは朝ミサの後、司祭館で朝ごはんを頂いてから活動して、毎日の様に朝や晩ごはんを御馳走になっていました。

教会学校のキャンプの他に、車にテントと食料品を積んで、何台かで青年達とキャンプに行ったり、住吉川上流から六甲山に行くなど・・・、バザーもクッキーやプリンを作りして、青年達でお揃いのエプロンをつけたり、男子はシェフの白服で三木館の2Fで喫茶店をしたり、楽しい事ばかりでした。

海星女子学院に入学したので、デラ神父様、ベロー神父様など、パリ・ミッション会の神父様方に大切にして頂きました。

生後一ヶ月で洗礼を受け、初聖体、堅信、結婚式など、結婚して垂水教会に移るまで、本当にお世話になりました。四十年前に垂水教会から住吉に戻って来て今に至りますが、弟ファミリーが三代に渡って住吉教会中心の生活を送ってくれていることに感謝しています。今後も皆様と心を合わせて活動を続けて行って欲しいと思っています。



愛の神父、ジョン・オマリー神父

マリア・テレジア S. S.

長年司祭として、愛の教えを私たちに伝えてくれた神父様。「何があっても毎日夫婦で祈る時間を作りなさい」との助言を頂き、夕べの祈りは今も夫婦の絆を深める、欠かせない習慣になっています。私は幼稚園児の頃から神父様にお世話になっており、教会学校や青年のバイブルクラスで、神父様の愛の言葉に触れてきました。神父様とお話しすると自然と笑顔が出てきます。とてもチャーミングなところがあり、誰からも愛される神父様でした。甘いものが大好きで、バイブルクラスに私はお菓子やケーキを毎回持って行きました。神父様のミサ説教は子供にも分かる内容で、ジョークを交えながら日本語と英語で、全ての人が御言葉を吸収できるように真心を尽くされました。

私と夫は、神父様が亡くなる数ヶ月前に東京のロヨラハウスに会いに行きました。力強く、信仰と愛についてお話し下さいました。神父様は神様から愛され続け、祈りによって、それに応え続けてこられたのだと、その時感じました。私にとって神父様と出会えたことは大きな力となっています。まだまだ神父様とお話ししたいことは沢山ありましたが、ジョン・オマリー神父様、今までありがとうございました。



入信の想い出

マリア・カタリナ S. W.

住吉教会創立九十周年をお祝いお喜び申し上げます。

さて転勤族の私は三十年前に神戸へ移動し「住吉教会」へ転入致しました。

その折りに聖歌隊の一員に加えて頂き、大好きな聖歌を今も楽しく歌わせて頂いており、感謝致しております。

教会に伺うようになりましたのは、そのまた三十年前、つまり六十年前の若い頃でした。東京四谷にある聖イグナチオ教会で越前喜六（えちぜん・きろく）神父様の「講座」を受けました。上智大学の教授でもあり教会の神父様でもいらっしゃいました。当時は週一度、夜に若き男女、二十人ほどが受講しており、学生や修道士もいました。講義を聴いたり、それぞれ語り合いが持たれ、終わりには歌を歌いました。「友よ又会う日まで♪シャロウムシャロム♪恵みの日訪れん♪シャロウンシャロン♪」今でも忘れずに歌えるのです。

夏には日光に合宿に出かけました。美しい自然のなかでラジオ体操や散歩を楽しみ修道士達は何か楽器を習得して楽しんでいました。神父様の講義はユーモアに溢れ話術に長け、人気が高かったので受講者の多くは受洗した為に陰で「受洗製造機」とささやかれていました。大変申し訳なくごめんなさい……。

当時四十歳と思われた神父様は、今年も「心のともしび」七月号に相変わらず卓越された文章をお書きになっていました。

長い間にはいろいろな事がありましたが、神父様のたくさんのお話の中で今も心に残るお言葉は「どんな苦しい、辛い時でも必ず神さまは『イエス、イエス』と答えてくださるのですよ」と……。



住吉教会創立90周年ミサを2週間後にひかえた6月21日、私達のもとにシリロ神父様のご訃報が飛び込んできました。翌日のミサで、神父様のために皆でお祈りしました。

シリロ神父様は45年間もの長い間、日本の教会、私たちのためにお働きくださいました。感謝申し上げます。その間には阪神・淡路大震災もありました。

大変な時も神父様は、いつも明るく楽しそうに共にいてくださいました。主は神父様をたくさんの人を神様に導く仕事をお与えになり、お守りになり、天国へお召しになりました。主よ、永遠の安息をシリロ神父様にお与えくださいますように。（6月22日ミサの「共同祈願より」）

シリロ神父様が2011年、スペインにお帰りになられるときの、住吉教会でのお説教から抜粋したもの
を記します。
(編集部)



「私がいつも説教の時に話しますね、「お母さんたちは子供に対して、説教を短くして祈る時間を長くしなさい」と。同じように司祭も説教を短くしてお祈りを長くしなければならないということを私は本当に信じている。私はこれから皆のために祈りたい、ゆっくり。

人生は、勉強する時期がある、働く時期もある、遊ぶ時期もある、祈る時期もある。私はそろそろ祈る時期に入っているから私は静かに皆のために祈りたいと思います。～中略～

もうひとつの理由は、あなたたちが、スペイン行って迎えてくれる人がいなかつたら困るでしょう、私はちゃんとよろしくお願ひします。

赤波江神父さんとタンス神父さんは残っているから、それだけでなくてあなたたちはみんな非常にしっかりしているから、私は本当に安心しています。

皆さん今まで本当にいろいろとありがとうございました。そして皆さん、私の諸悪、私の欠点を許してください。

（「すみよし」第186号 2012年イースター号より抜粋）



2025年7月6日

* * カトリック住吉教会創立90年周年記念ミサ

7月6日午後1時より酒井俊弘補佐司教の主司式で「カトリック住吉教会創立90周年記念ミサ」が執り行われました。

住吉教会にゆかりのある諏訪榮治郎名誉司教、和田幹男神父、金台根神父もいらしてくださいなり、神戸地区神戸東ブロック共同宣教司牧のブインガ・ブレーズ神父、コンスタンシオ・C・コンスルタ神父、谷口幸紀神父と共に記念ミサの司式を行ってくださいました。

猛暑の日となりましたが約200人もの信徒が集まり、聖堂は喜びと感謝と祝福の祈りに包まれました。祭壇上の十字架の下と聖堂入口には「聖靈の動きに応える一つにまとまった共同体になれますように」というお言葉の横断幕を金台根神父がご準備くださいり、お言葉通り皆心を一つにしてミサをお捧げしました。

「ことばの典礼」では創立記念ミサにふさわしい『教会』についての聖書の箇所が朗読され、教会は神そのものであり、そこに集う私たちには神が共にいてくださるというお恵みが与えられていることに感謝の気持ちを新たにいたしました。

酒井補佐司教はお説教の中で90年の長きにわたって住吉教会の歴史を紡いでこられた神父様方、シスター方、信徒に感謝の言葉を述べられました。朗読された聖書の言葉や教会の守護聖人である聖パウロ三木の想いに触れながら、住吉教会が幾多の自然災害や戦災をこの地で受け、その度に更地になりそこに新しい教会を建ててきた。そして教会は社会との交流を深め、地域に溶け込んだ共同体になったことに希望を持つ根拠があるのだとおっしゃいました。長い歴史の中で、住吉教会がその都度多くの試練を乗り越え立ち上がってきたことを神に感謝し、これからも新しい教会が続していくことを願いながら、生きたキリストと共に過ごし、喜びと希望を伝えていくことが出来るよう祈りましょうと結ばれました。



奉納では、教会学校の子供たちが心を込めて作製した、ノアの箱舟を模した「SUMIYOSHI号」の絵パネルをお捧げしました。教会を引き継いでいく次世代の子ども達に神の温かい眼差しが注がれることをお祈りいたします。



感謝の典礼、交わりの儀、捧領祈願と滞りなくごミサは進み、酒井補佐司教のお言葉の後、住吉教会ゆかりの神父様方のご紹介とお話をいただきました。

諏訪名誉司教は、教会の歴史とは絶えざる改革の歴史であること、また震災後の地域の方々との触れ合いを思い出深くユーモアを交え語ってくださいり、これからのおかの教会の在り方について、そして住吉教会は神の子を生み出す教会とのお言葉で結ばれました。

ブレーズ神父は、酒井補佐司教への感謝と、福音を述べ伝えてくださった教区長、パリ・ミッション会の司祭の方々、幾多の困難を乗り越えてこられた信徒の方々へ感謝を述べられました。また信徒の高齢化と減少、在住外国人信徒が邦人信徒の数を上回ったことなど現代の教会が抱える問題、殉教者から受け継いだ信仰を守り、次の世代に受け継いでいくことの大切さについてもお話し下さいました。

和田神父は、昭和13年の水害、戦時下における住吉教会でのご自身の初聖体・堅信などの思い出に加え、戦中戦後のご苦労や住吉教会の建物の変遷・デラ神父との思い出などお話し下さいました。

閉祭の歌【希望の巡礼者～2025年「聖年」の賛歌～】が厳かに合唱される中、神父様方が退堂され、90周年記念ミサは閉祭となりました。

次の100周年に向かって、これまで神父様方・信徒の方々が繋いでこられた信仰のバトンを、どうぞ次の世代に渡せますようにと願ってやみません。



ミサに続いて、お当番地区の皆様が心を込めてご用意くださいましたパーティー会場へと場所を移し、谷口神父の初めの祈り、酒井評議会議長のごあいさつ、そして酒井補佐司教のご発声で乾杯！お祝いのパーティーの始まりです。

その後は、教会学校の子供たちのかわいい歌、聖歌隊の皆さんのが歌、若い方たちのバイオリン演奏と歌などが披露され、会場から大きな温かい拍手が送られていました。

また、金神父が教会創立90周年にちなみ、ことし90歳を迎えた4人の方々にお祝いと祝福を送られるなど、用意されたご馳走を頂きながら、楽しいひと時を皆で過ごしました。会場では住吉教会の90年の歴史をたどる映像が流され、懐かしい写真に懐かしいお顔を見つけては歓声が上がっていました。歓談される皆さんのは笑顔がとても素敵でした。

最後は、諏訪名誉司教による終わりのお祈りで、感謝のうちにパーティーを終えることができ、信徒一同、この日を迎えることができたことに改めて神様に感謝！の一日でした。

(編集部)

* * 教会学校





* 教会学校の思い出

教会学校を卒業した若い方に、以下のテーマで原稿を募集しました。

- 1・住吉教会の思い出・または教会学校の思い出、侍者の思い出
- 2・生活中で、「神様のこと」「信仰のこと」「教会のこと」を思いだす場面があれば、その時の気持ちや出来事をぜひ書いてください。
- 3・その他、(ご自由に)

幼少の頃、大人しくしている事が苦痛で日曜日の朝ミサに行きたくなかった私。星の園幼稚園に入園、休みの日にも幼稚園に行けることが嬉しかった事や小学生以降は侍者や日曜学校、学生チームでの活動を通じ祈りの中で神様を感じる事が出来たことで、教会に行くことが当たり前になっていました。

キャンプでの美味しい食事、ミサゴのパンやお茶、皆で作ったパスタや焼きそば、バザーでの焼鳥、綿菓子、カレー、うどん他諸々…主に食べる事ばかりに見えますが、皆で食事を囲む喜びや分かち合いは正に血肉になっていると感じています。

縁あって堺に居を構え、現在は堺教会に所属しています。男子3人の親になり、大変さと楽しさを実感しています。自分を育ててくれた家族、子どもの頃からあたたかい目で見守ってくださった【すみよし】に感謝しています。次の節目の100周年を神様の祝福のうちに迎えられる事をお祈りいたします。90周年本当におめでとうございます！ 洗者聖ヨハネ N.K.

就職して東京に出たあと、ほぼ教会に行っておらず、恥ずかしながら信者と胸を張って言えない立場ではございます。

住吉教会での思い出というと、侍者している途中で貧血起こしたり、鼻血だしたり、ボッタしたりして矢野神父さんに注意されたりなど、多々あります。あのややこしい反抗期にそれでも教会に通っていたのはなぜだろう、と思います。待っていてくれた方があったからでしょうか。

今40手前になって思う事は、少年時代に震災後の神戸で住吉教会を通じて多くの人に出会い交流し、多くの考えに触れました。この経験は今の私と家族との関係、仕事での部下や上司との関係、今の日本の情勢への思い全てに影響しており、私という人間のバックボーンになっております。最後になりましたが、住吉教会90周年心よりお祝い申し上げます。これまで支えてくださった皆様に深く感謝いたします。

ミカエル S.H.



1・住吉教会は小さい頃から通っていたので、自分の中の安心できる場所の一つだと思います。

教会学校では、夏にみんなで海や山に行った思い出が一番心に残っています。

自分が子どもの時に連れて行ってもらった記憶から、青年チームになって引率のお手伝いも経験させて頂いて、今は違う職についてはいますが、幼稚園教諭を目指すきっかけにもなったと思います。

2. 自分の生活の中で不安に思うことや、おじいちゃんが恋しくなった時、一緒に見守って下さっていると思えば、心強くなります。

スコラスティカ M.U.

住吉教会の思い出で最も印象に残っているのは、教会学校のキャンプや、中学生の時に長崎・広島を訪れた経験です。大学では教育学部に入学し、子どもとキャンプをするボランティアに入った際、子どもたちを楽しませながら、運営・引率する側の大変さを身をもって感じました。子どもたちへの宗教的な教育に加え、楽しめるプログラムを工夫し、成長のために関わってくださった皆様に、改めて感謝申し上げます。

もう20年以上も前の経験ですが、キャンプファイヤーで「アブラハムの歌」を歌って踊った楽しさ、広島の平和記念資料館で戦争の恐ろしさを学んだことを鮮明に覚えています。

教会の皆様の温かさや優しさに包まれながら育ってきたことを、改めて実感しております。このような温かな場所である住吉教会が神様のお守りのうちに90周年を迎えることを、心から嬉しく思います。

クララ S.H.

1・ありがたいことに歳が近い人が多く、友達と一緒によく祈り、よく食べ、よく遊んだことが大切な思い出です。

2・寝る前に一日を振り返るときに、無事に一日を過ごせたことに感謝し、神様に見守ってもらっていることを思い出します。

使徒ヨハネ K.S.



住吉教会創立90周年おめでとうございます。

以前の聖堂で洗礼を受け、旧園舎で初聖体に与り、現在の聖堂で侍者として奉仕、住吉教会の90年の歴史の三分の一にも満たない私ですが、振り返ればたくさんの思い出がここには詰まっています。

今は離れてしまっていますが、住吉教会での学びを通して出会った神様が、どんな時も見守ってくださることが支えとなり、様々なことに挑戦することができます。そしてなによりいつもあたたかく歓迎してくれる家族のような住吉教会という共同体は私にとってとても大切な宝物の一つです。私がそう感じているように、今後も誰かにとって大切な共同体であり続けることをお祈りしています。

テレジア A.S.

1. 思い出

幼稚園の頃から数々の思い出はありますが、貴重な体験をさせていただいたなと思いました。楽しい巡礼やキャンプにも行きましたが、釜ヶ崎の夜回りに連れて行っていただいたのは今でも昨日のことのように覚えています。自分にとっての普通だった生活が、当たり前ではないことを目の当たりにするという、普段の勉強や読書では得られない機会となりました。

2. 生活の中で

非常に恥ずかしい話ですが、困っている人がいるのに助けられなかった時や、つい自分の利益を優先してしまった時に、教会で教わったことや信者の方々の優しさや立ち振る舞いを思い出して反省することが多いです。

ペトロ・岐部 S.K.



住吉教会創立 90 周年、誠におめでとうございます。

思い返してみると、住吉教会で過ごした思い出は数えきれないほどあります。教会学校やサムエルナイト、ミサ後の勉強会や大好きなパーティー、侍者の奉仕やbingo大会、恒例のお立ち台。そして、まともに落ち着いて御ミサに参加することができなかった頃から二十歳のお祝いをしていただくまで、温かく見守ってくださった住吉教会の皆さんのこと。その一つ一つが印象深く、楽しかったと同時に多くのことを教えていただきました。

私は昨春から一人暮らしを始めましたが、緊張や迷いで不安なときは、静かにお祈りし、神様が見守ってくださっていること、お導きであることを考えます。今では当たり前なこの日常も、住吉教会で教えていただいたことがあってこそのことです。

このたび、これまであまり意識したことのなかった住吉教会の歩みに触れ、何よりお祈りしつづけること、そして教会共同体の大切さを実感しています。またこれらを守ることが目まぐるしく変化する社会の中で私たちに与えられている使命だと考えます。

これからも住吉教会のますますのご発展とご繁栄をお祈りしています。

西千葉教会 パウロ I.K.

カトリック住吉教会創立 90 周年、心よりお祝い申し上げます。

私にとって住吉教会は、まさに「人生に欠かせない場所」です。幼い頃から通ってはいましたが、特に自分の意志で教会に通うようになった高校生から大学生にかけての時期は、私の人生の大半を形作ってくれた気がします。

高校生の頃は、教会で仲間たちとバンド活動に熱中しました。パウロ神父様（当時）には、練習の音漏れで「曲覚えちゃったよー」と冗談交じりにおっしゃるほど、寛大な心で我慢し、見守っていました。その音楽活動は今も続っています。また、大学生の時には、赤波江神父様（当時）にお声がけいただいて、タイでのボランティア活動に参加することができました。海外の現実を目の当たりにし、それまでになかった広い視野を持つことができ、この経験が、海外に挑戦したいという関心を呼び起こし、それは現在の仕事へのモチベーションにもつながっていると思います。

その他にも、鍊成会や教区のイベントなど、住吉教会を中心とした様々な行事に参加させていただき、多くの出会いを通じて、自分の信仰を深く見つめ育てることができました。

今度は、私がかつてお世話になったお兄さん、お姉さんたちのように、教会を支える世代の一員として、中高生や大学生の青年たちを励まし、彼らの信仰と活動の力になれたら、と思っています。

ルカ K.H.





私はお母さんのお腹の中にいる時から韓国シンサドン(新寺洞)教会で七年、住吉教会で七年間、計十四年間教会に行っています。なので教会は家みたいにリラックスの出来る第二の家だと考えています。

また、教会で侍者を始めていろんな大切なことを学びました。いつも朝早くからミサの準備をしてくださるNさん(Nさん以外の準備をしてくださる方々も)、神父様など色々な方に感謝の心を伝えたいです。色々迷惑もかけたと思いますがいつも本当にありがとうございます。住吉教会創立90周年おめでとうございます。

アグネス S.M.

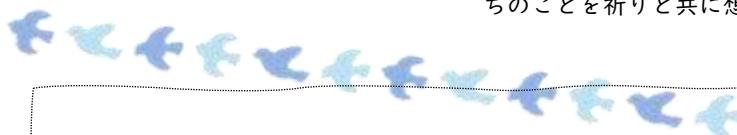
住吉教会で侍者をし始めて8年経ちました。僕が生まれたときから、教会の皆さんに育てていただきました。これからも僕の成長を見守っていただきたいです。住吉教会90周年おめでとうございます！

ボナヴェントゥラ S.S.

私にとって教会は、もうひとつの家のようで、教会の皆さんに育ててもらったと言っても過言ではないくらいです。小さい頃からミサや行事を通して、たくさんの学びと温かい支えをいただいだ、皆さんのお祈りと励ましに守られて成長してこられたことに心から感謝しています。これからも神さまへの感謝を忘れず、信仰を持って歩んでいきたいと思います。

アンジェラ・メリチ W.S.

住吉教会では、1月の新成人の祝福のミサで決まって歌う聖歌があります。その聖歌「忘れないで」を歌うと、新成人の方のことはもちろん、住吉教会を離れていろいろな場所で頑張っておられる若い方たちのことを祈りと共に想います。



「忘れないで」 (作詞:深堀冴子 作曲:新垣壬敏) より1番・2番引用

1・遠い国を旅する子よ

父も母も祈っています

見知らぬ人の出会いの中で

キリストをみつけましたか

キリストを伝えましたか

「神に感謝」を忘れないで

忘れないで

2・光と陰の道を行く子よ

父も母も祈っています

日々のつとめと試練のなかで

キリストに触れましたか

キリストを抱きましたか

「神に感謝」を忘れないで

忘れないで

謝意

カトリック住吉教会創立 90 周年記念号の発行にあたりまして、ご多忙の中ご寄稿いただきました前田万葉枢機卿様、酒井俊弘司教様、諏訪名誉司教様、神父様方、園長先生、信徒の皆様に、心より御礼申し上げます。ご協力くださいましたすべての皆様に感謝いたします。おかげをもちまして、本号を無事発行する運びとなりました。ありがとうございました。

カトリック住吉教会広報チーム 一同

(MH、KT、AM、CT、AS、TY、NI、TS、SS、HH)

編集後記

2024 年秋の評議会で「2025 年に創立 90 周年記念行事を行う」と聞き、広報チームでは、創立 90 周年記念誌を発行するかどうか以前に「今の私達に作れるのか」という不安が先に立った、というのが正直なところでした。

それでも、作成を決めたのは、住吉教会には、創刊 1952 年・現在 213 号まで続く季刊誌「すみよし」誌があり、先輩方から受け継いできた「すみよし」誌の積み重ねで、私達のできる範囲で臨んでみよう、という想いからでした。

編集が始まりますと、長年「すみよし」誌を編集してこられた先輩方のお力添えがあり、また新たに広報チームに参加してくださった方もありと、世代をつなぐ橋渡しとして、そして次の 100 周年へのバトンとして、90 周年記念号発行という仕事を神様がお与えくださいました。また、ホームページにデジタルアーカイブを保存してくださったホームページ委員会にも感謝です。

現在のメンバーだけではありません。年代確認などで、何度「すみよし」バックナンバーを繰ったことでしょう。そのたびに、細かく記録された年代とともに、帰天された懐かしい方々やお顔も存じ上げない昔の方々の、教会への思いや信仰の深さを綴った文章を読み、励まされた編集期間でもありました。(そういった過去の「すみよし」の記事をあまり載せられなかったことが・・反省点のひとつです。)

広報チームは編集作業を通して、住吉教会の「声」や「顔」に触れ、たくさんの信徒の方の信仰と思いと行いが築いてこられた「生きた教会」を感じることができました。2025 年の住吉教会の今の「声」を少しでも残すことが出来たなら、幸いです。

教会はキリストを頭としたキリストの体と言われます。私達もその一部。イエス様を礎とした教会の小さな石のひとつ。このことに感謝と喜びを覚えた 90 周年でした。

皆様ありがとうございました。そしてお見守りくださった神様に感謝です。

「すみよし」住吉教会創立90周年記念号（214号）	
発行日	2025年12月24日
発行責任者	ブレーズ神父 コンスルタ神父
編集・印刷・発行	広報チーム
発行所	神戸市東灘区住吉宮町 2-18-23 カトリック住吉教会
TEL	078-851-2756
FAX	078-842-3380
https://cath-sumiyoshi.sakura.ne.jp	

マリア・ラファエラ H.H.

* 「すみよし」バックナンバーは、教会
2 階図書コーナーにてご覧ください。
* 2007 年からの「すみよし」バックナン
バーはホームページからもご覧いただけ
ます。





1935~2025